



文部科学省  
今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の  
在り方に関する有識者検討会

学習評価の在り方からカリキュラム改善を考える

2024年4月26日  
京都大学 西岡加名恵





## <自己紹介>

- 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)。
- パフォーマンス評価(パフォーマンス課題、ルーブリック、ポートフォリオ評価法)を用いたカリキュラム改善などについて研究している。
- 京都大学大学院教育学研究科E.FORUMの講師と運営を担当(<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>)。
- 日本学会議第26期会員。
- 日本教育学会近畿地区理事、日本教育方法学会理事、日本カリキュラム学会理事、教育目標・評価学会代表理事など。
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～2014年3月)、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業の今後の方向性等に関する有識者会議」委員(2020年4月～2021年3月)、内閣府 第3期SIP課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」サブ・プログラムディレクター(2023年4月～2024年3月)、文部科学省 教育研究開発企画評価会議協力者(2023年11月～2024年10月)、文部科学省 中央教育審議会教育課程部会 臨時委員(2023年12月～2025年3月)など。



## <今日、ご提案したいこと>

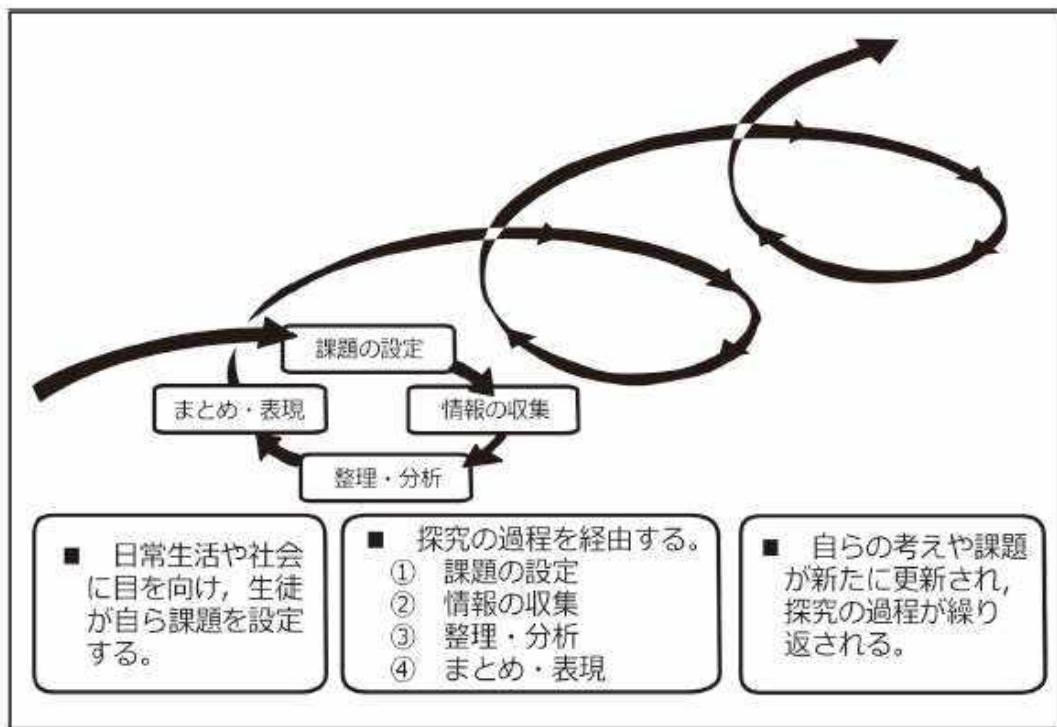
1. 教育課程の領域の整理と役割分担の明確化
2. パフォーマンス評価の活用の推進
  - 教科におけるパフォーマンス課題
  - 「探究的な学習」を促進するポートフォリオ評価法
3. 教科における成績づけ(評定)の在り方
4. カリキュラムと評価の改善を促進する仕組みの構築

# 1. 教育課程の領域の整理と役割分担の明確化

## (1) 学習指導要領の変遷

- 1998(平成10)年: 「総合的な学習の時間」の創設

探究的な学習における生徒の学習の姿



(文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2018年、p.9)

## ● 学年発展型のカリキュラム

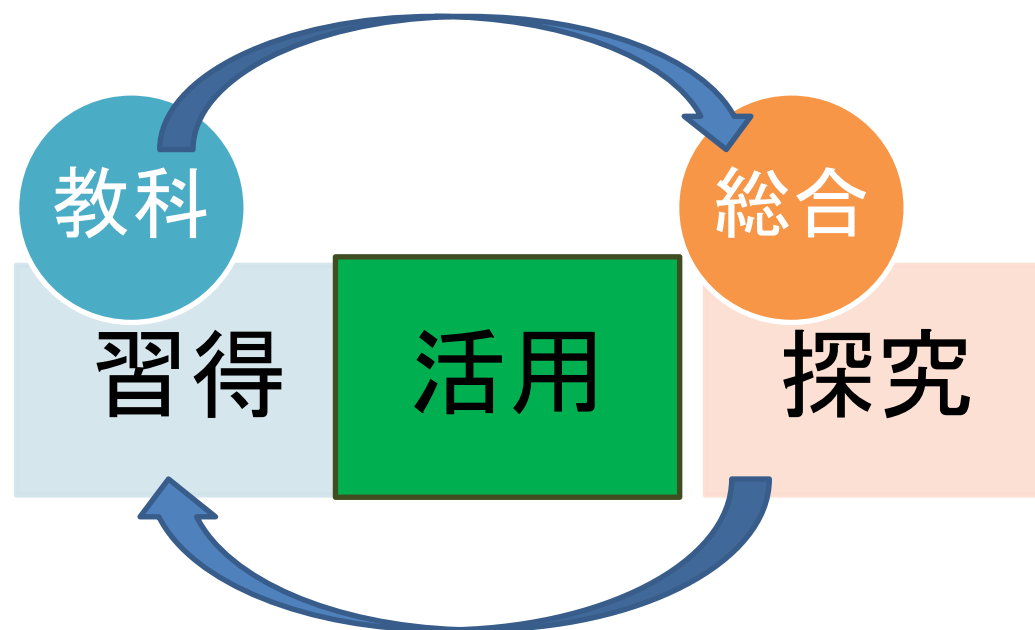
3年生: 発展的な課題を設定する。  
探究をさらに深め、発信する。

2年生: 問題意識に基づいて課題設定する。調査を行う。  
まとめ・表現して課題を設定し直す。

1年生: 問題意識を育む。  
先輩のモデルに触れる。手法を学ぶ。



- 1998 (平成10)年: 「総合的な学習の時間」の創設
- 2003 (平成15)年: 「確かな学力」の向上をめざし一部改正  
Cf. 2004 (平成16)年: PISAショック(「読解リテラシー」)
- 2008 (平成20)年: 「知識・技能」を活用する「思考力・判断力・表現力等」



## (2) 2017・2018(平成29・30)年改訂学習指導要領

### 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

**「社会に開かれた教育課程」**の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の  
新設など  
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的  
に示す

**学習内容の削減は行わない**

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・  
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善


生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高  
い理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

※高校教育については、国定及び準国定の課程が大学入学資格制度で開かれることが標準になっており、  
そうした点を考慮するため、選修科目の設置等を念頭に最大限課程改善を進める。

6

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領  
等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)



## ◎育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 (2012年12月～2014年3月)

- 教科横断的な汎用的スキルと、教科目標・内容とを、どう両立させるかを検討した。
- 教科における「本質的な問い」に取り組むパフォーマンス課題を活用することで、汎用的スキルと教科における「見方・考え方」を同時に育成する。←「逆向き設計」論

▲領域(時間)ごとの独自性を整理するに至らず…。

### ②育成すべき資質・能力に対応した教育目標・内容について

・ 現在の学習指導要領に定められている各教科等の教育目標・内容を以下の三つの視点で分析した上で、学習指導要領の構造の中で適切に位置付け直したり、その意義を明確に示したりすることについて検討すべき。ア)～ウ)については、相互のつながりを意識しつつ扱うことが重要。

ア)教科等を横断する汎用的なスキル(コンピテンシー)等に関わるもの

- ①汎用的なスキル等としては、例えば、問題解決、論理的思考、コミュニケーション、意欲など
- ②メタ認知(自己調整や内省、批判的思考等を可能にするもの)

イ)教科等の本質に関わるもの(教科等ならではの見方・考え方など)

例:「エネルギーとは何か。電気とは何か。どのような性質を持っているのか」のような教科等の本質に関わる問いに答えるためのもの  
の見方・考え方、処理や表現の方法など

ウ)教科等に固有の知識や個別スキルに関するもの

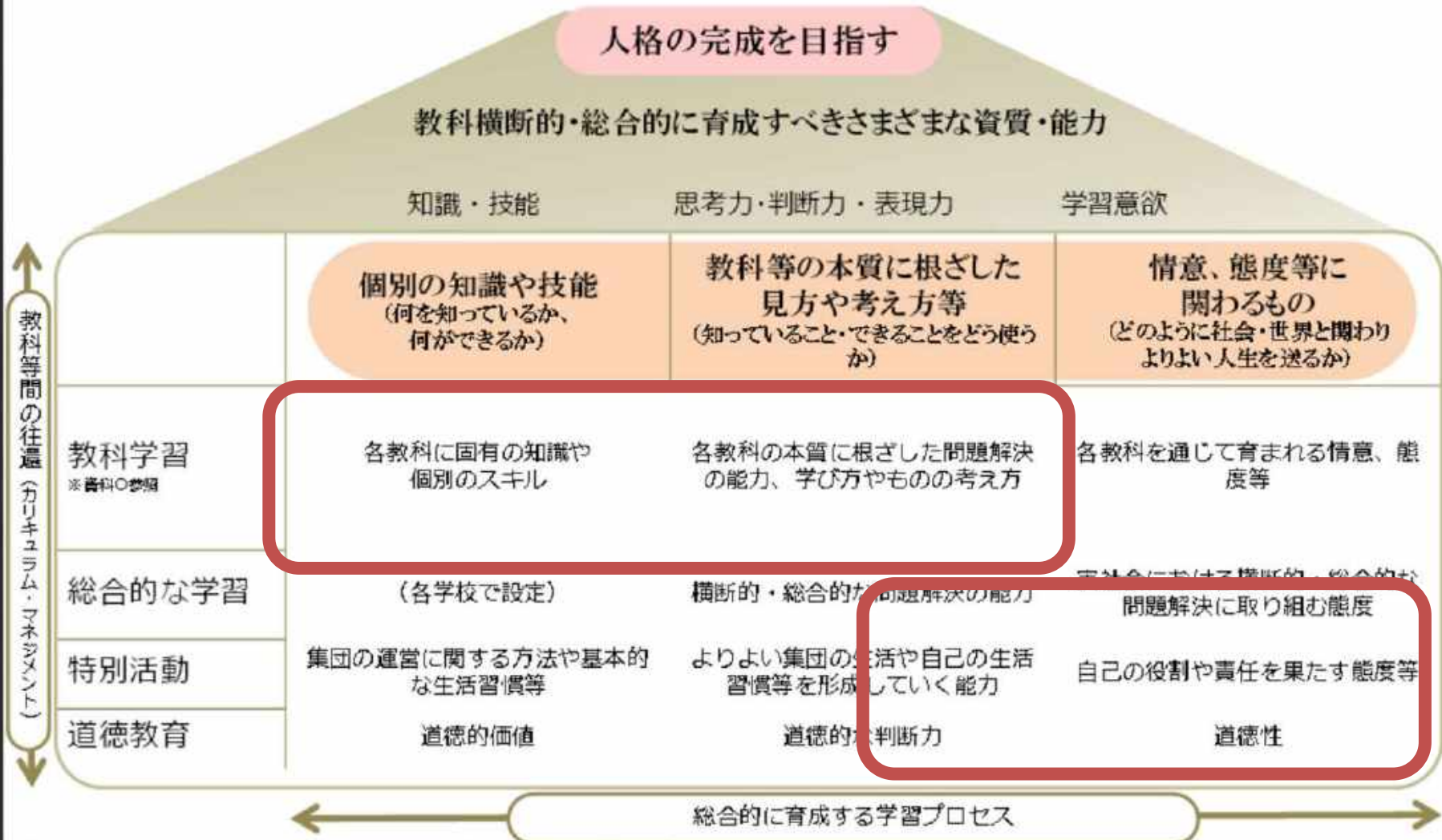
例:「乾電池」についての知識、「検流計」の使い方

(「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—  
【主なポイント】」2014年3月31日)

# ◎現行の学習指導要領への改訂の途中経過

## 学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけではなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。



○幼児教育においては、主体的な活動である遊びを通じて総合的に指導。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 教育課程企画特別部会(第7期) 第13回 (2015年8月5日)の配付資料「論点整理 関連資料集(案)」より)



# CF. 目標と評価方法の対応

教科  
学習

A) 次の文の空欄に適切な言葉を書きなさい。

サンフランシスコ近郊の( )は、コンピュータ関連産業の中心地である。

(筆者作成)

B) アメリカの工業の特色は、どのようなものでしょうか。地図帳の統計資料で工業製品の種類や輸出量を調べて、まとめてみましょう。

(『新しい社会 地理』東京書籍、2016年、p.104、および『社会科 中学生の地理』帝国書院、2016年、p.118を参照して筆者作成)

C) あなたは、ある自動車会社の海外事業展開部のチームの一員です。あなたの会社では、電気自動車(EVあるいはPHEV)の生産、販売において、海外進出を計画しています。[様々な地理的条件を踏まえつつ]どこの国に事業展開していくかを提案してください。

(熊本大学教育学部附属中学校 小田修平先生の実践)

D) 皆さんに、地域や人々を幸せにする方法を提案してもらいます。地域の特色について3~5人のグループで、フィールドワークにより調査したうえで、企画を考え、提案してください。

(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校の実践をふまえて、筆者作成)

Cf. 山本吉次「SGHと探究学習の実践」E.FORUM教師力アップ研修「探究力をどう育成するか」2015年3月28日、[https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/148/?video\\_id=1740](https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/148/?video_id=1740)

事  
実  
的  
知  
識

資  
料  
活  
用  
の  
ス  
キ  
ル

知  
識  
・  
技  
能

知識・技能を活用し、「産業の発展に地理的な条件はどのように影響するのか?」に関して思考・判断したことを表現する。  
(思考・判断・表現)

生徒自身が課題設定。「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」にダイレクトにかかわる。複数教科の「見方・考え方」などを総合。



## ◎2018改訂高等学校学習指導要領にける「探究」の2タイプ

子どもによる  
課題設定の  
自由度



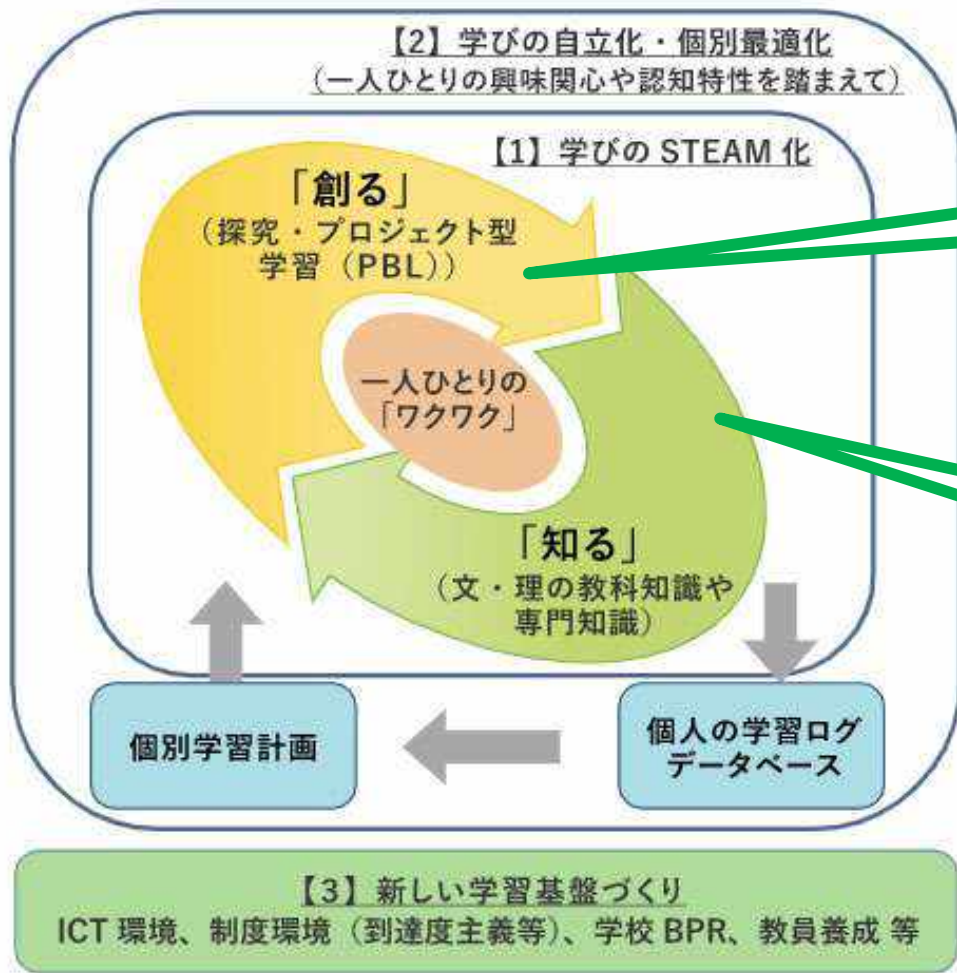
大

	教科教育	総合学習
習得	古典探究、地理探究、 日本史探究、世界史探究	人権教育、 性教育など
活用		
探究	古典探究、地理探究、 日本史探究、世界史探究	
探究	理科の自由研究、 理数探究、課題研究	児童・生徒自身の 課題設定による探究

- 「総合的な探究の時間」：「理数探究基礎」・「理数探究」、「課題研究」と代替可能
- 各教科における「探究」科目（「古典探究」、「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」）：「当該の教科・科目における理解をより深めるために、探究を重視する方向で見直しが図られたもの」（「総合的な探究の時間」と代替不可能）

### (3) 「習得」と「探究」への二極分化の懸念

#### 「未来の教室」が目指す姿



協働的な学び?

児童生徒が自由に課題を  
設定する「探究」

「知識・技能」を活用する  
「思考力・判断力・表現力」は?

デジタル・ドリルで  
「知識・技能」の習得

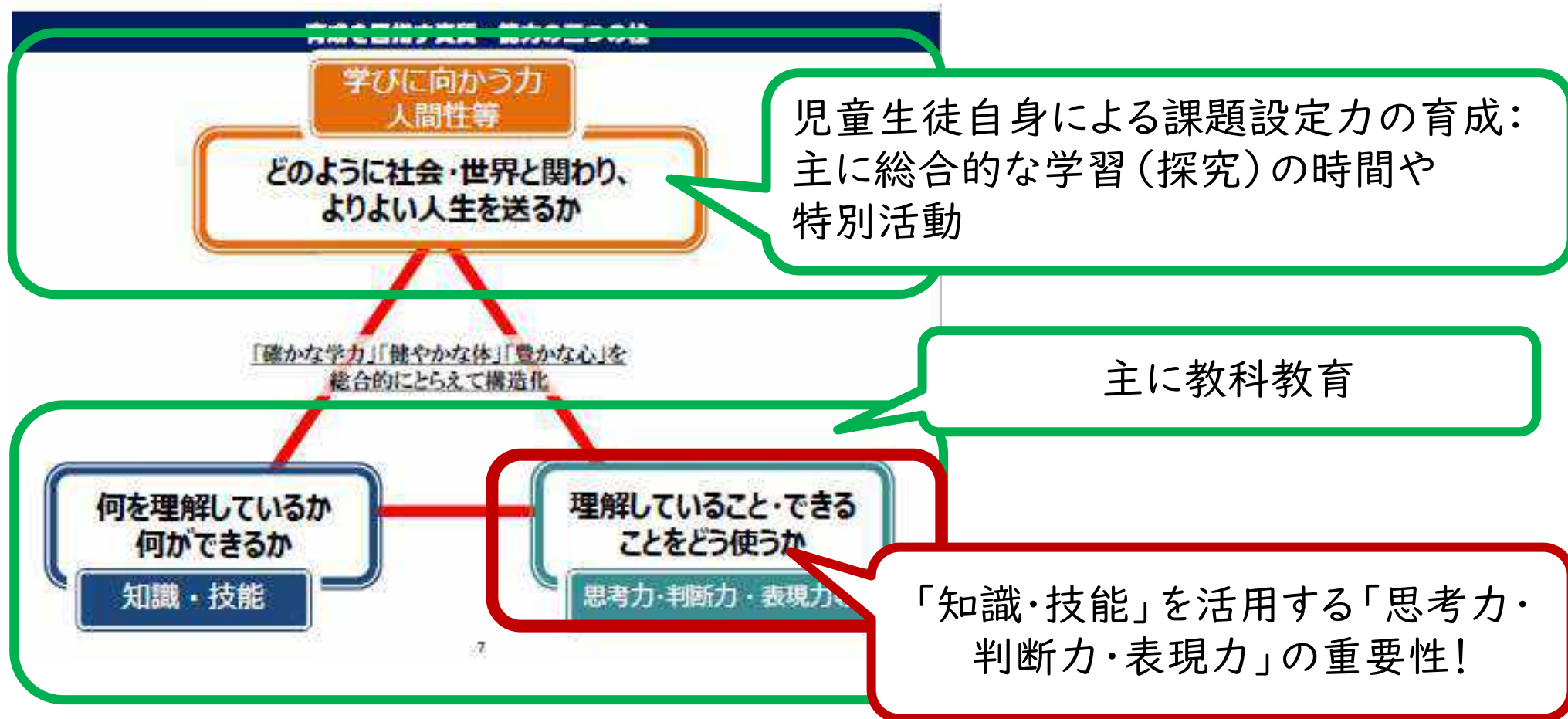
個別最適な学び?

Cf. 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～(答申)」2021年

(<https://www.learning-innovation.go.jp/about/>)



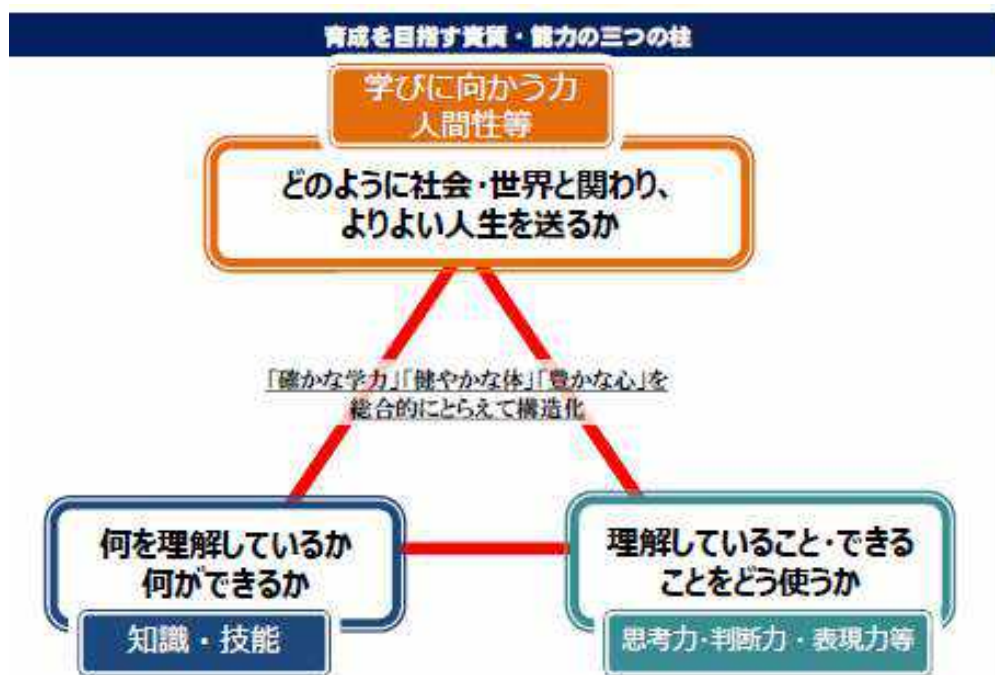
## (4)「資質・能力」の三つの柱を踏まえた今後の展望： 領域ごとの役割分担の明確化



(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)


## 2. パフォーマンス評価の活用の推進

### (1) 2017・2018(平成29・30)年改訂学習指導要領



資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)



## (2) パフォーマンス評価

### ◎パフォーマンス評価

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)

※「**真正の学力**」:①単なる暗記・再生ではなく、知識そのものを生み出す、  
②訓練された探究を行う、③審美的・実利的・個人的な価値を持つ

←**学力観の転換**

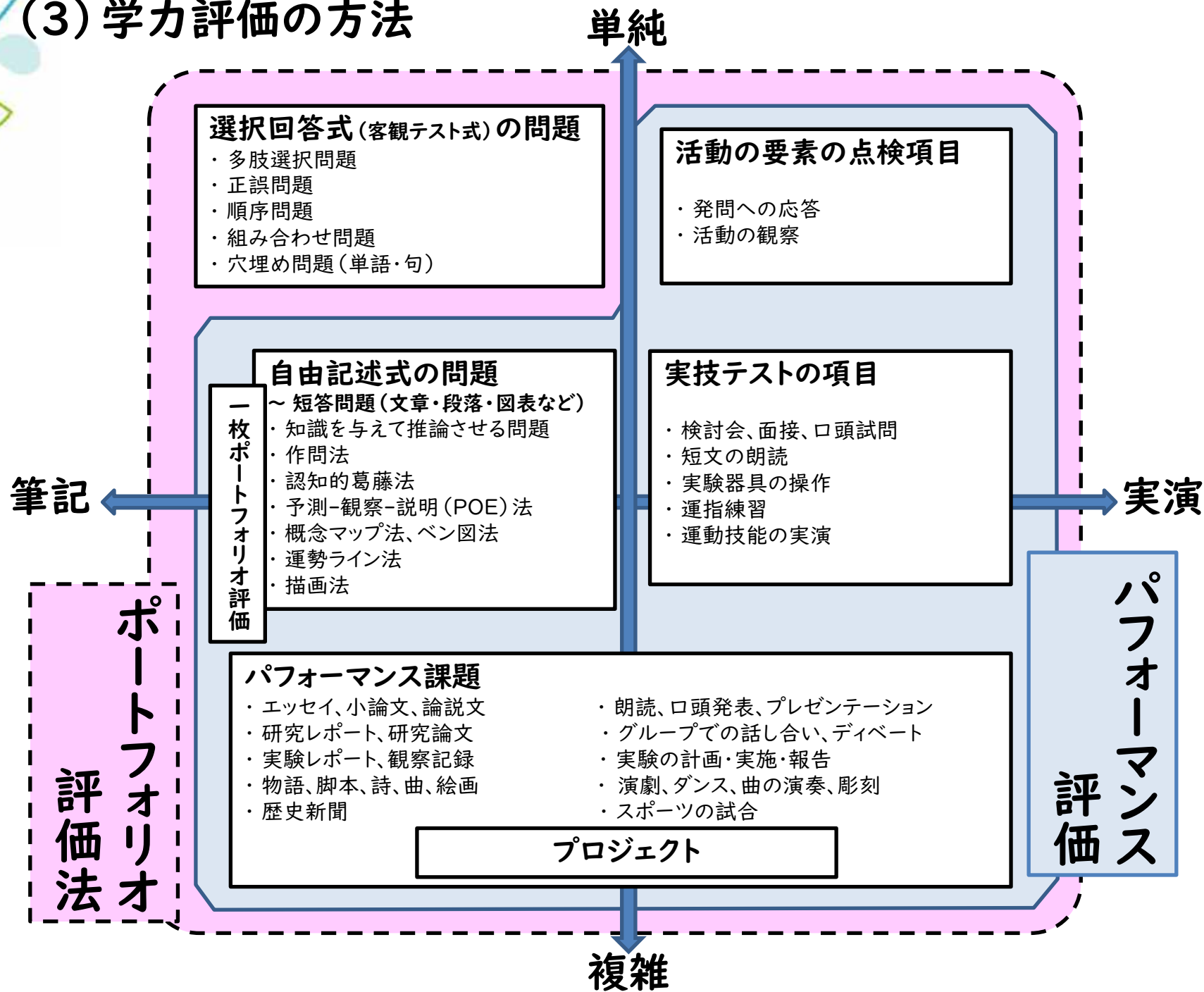
(F.M.ニューマン、渡部竜也他訳『真正の学び／学力』春風社、2017年)

※「**真正の評価**」論:現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの


### ◎パフォーマンス課題とは・・・

- 様々な知識やスキルを**総合して**使いこなすことを求めるような、**複雑な**課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった**完成作品(プロダクト)**や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった**実演(狭義のパフォーマンス)**を評価する課題。

### (3) 学力評価の方法



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83参照)



## (4) 「逆向き設計」論

求められている結果  
(目標)を明確にする

修了時をイメージする

承認できる証拠  
(評価方法)を決定する

指導の前に評価方法を  
計画する

学習経験と指導を  
計画する

### ◎「理解の6側面」

- ・ 説明する
- ・ 解釈する
- ・ 応用する
- ・ パースペクティブ(俯瞰)を持つ
- ・ 共感する
- ・ 自己認識を持つ

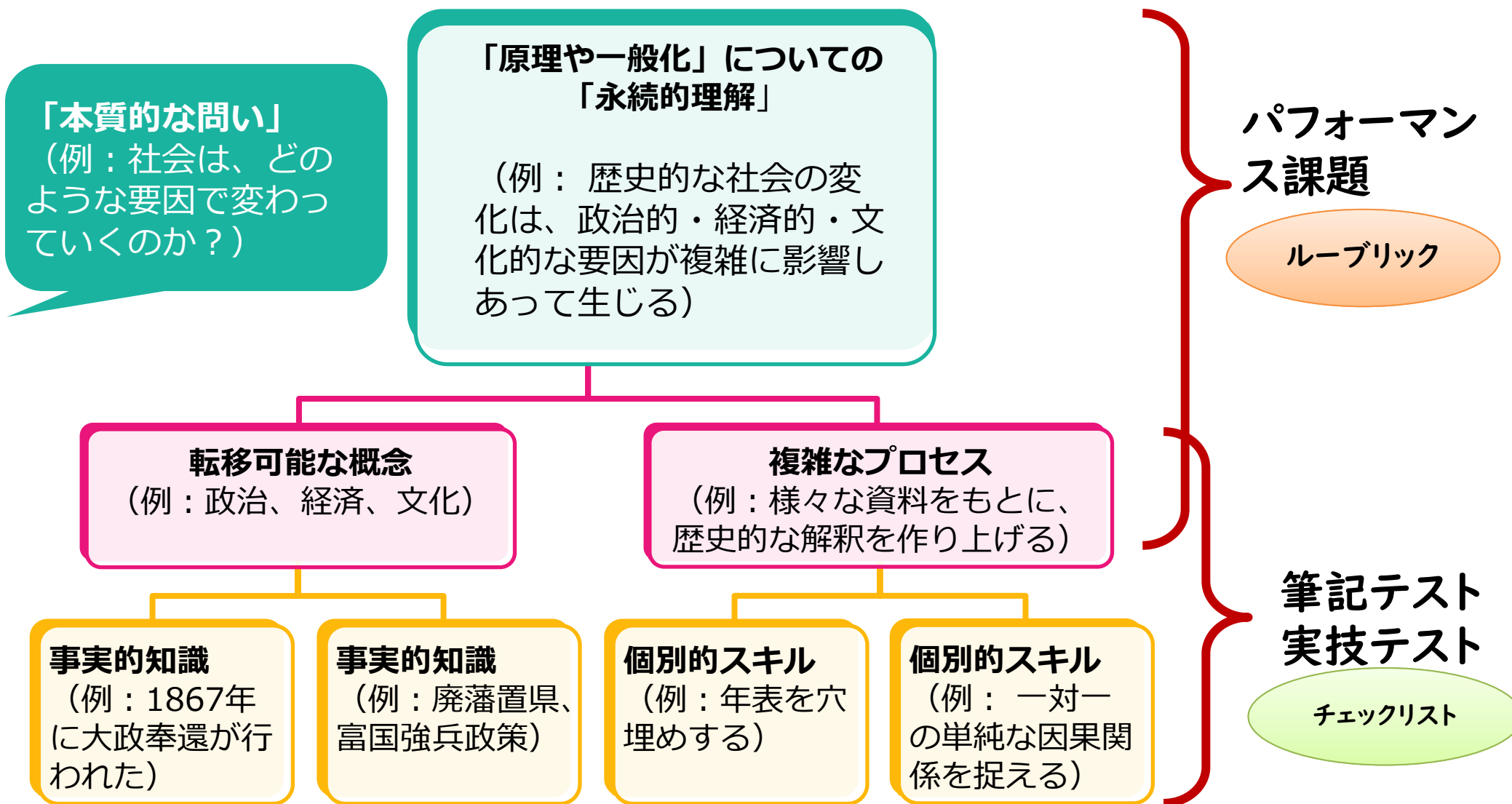
### ◎「真正の評価」論

現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの

(G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)



# ◎「知の構造」と評価方法の対応 ——中学校・社会科（歴史的分野）の場合



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83、及び西岡加名恵「教科のカリキュラムづくり」田村知子，村川雅弘，吉富芳正，西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年、p.99をもとに作成)



## ◎パフォーマンス課題の作り方

- ①単元を選ぶ(適切なサイズの単元を設定する)。
- ②単元の中核に位置する重点目標に見当をつけつつ、取り組む課題のイメージを持つ。
- ③「本質的な問い」を明確にする。
- ④その問いに対してどのようなレベルの答えに達してほしいか(「原理や一般化」についての「永続的理解」)を明文化する。
- ⑤パフォーマンス課題のシナリオを作る。

## ◎単元計画書テンプレート

(奥村好美・西岡加名恵『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年参照)

教科・科目名	学校名
対象学年	授業者名
単元名	
実施時期	時間数
1- 学習指導要領の関連内容	
2- この教科・単元で重視したいこと(生徒の実態、教科の本質、社会に出てからの必要性等)	
3-1 単元目標	
観点別評価規準 (※要可) (主体的に学習に取り組む態度) (思考・判断・表現) (知識・技能)	
<b>思考・判断・表現／態度</b> <b>【重点目標】</b> <b>「本質的な問い」</b> <b>「永続的理解」</b>	<b>知識・技能</b> <b>【知識・技能】</b>
<b>【パフォーマンス課題】</b>	<b>【その他の評価方法】</b>

## ◎「本質的な問い」の入れ子構造

- ◆ 方法論上の問い
- ◆ 概念理解の問い

### 包括的な「本質的な問い」

#### 単元ごとの「本質的な問い」

授業での主発問

授業での主発問

授業での主発問

授業での主発問

#### 単元ごとの「本質的な問い」

授業での主発問

授業での主発問

授業での主発問

授業での主発問

## ◎包括的な「本質的な問い」の例

国語・英語

- どのようにコミュニケーションをすれば良いのか？
- どのように書けば／読めば／話せば／聞けば／話し合えば良いのか？
- この〇〇の主題／教訓は何か？

社会、地歴・公民

- より良い社会（政治・経済）をつくるには、どうすれば良いのか？
- 人びとは、どのような地理的条件のもとで暮らしているのか？  
それはなぜか？
- 社会は、どのような要因で変わっていくのか？
- 社会的事象は、どのように探究すればよいのか？



## ◎包括的な「本質的な問い」の例

### 数学

- 現実の問題を数学的に解決するには、どうすれば良いのか？
- どのように量を測れば良いのか？
- 自然や社会にある数量の関係を捉え、未知の数量を予測するにはどうすれば良いか？

### 理科

- 自然の事物や現象は、どのような仕組みになっているのか？
- 科学的に探究するには、どうすれば良いのか？

### 音楽・美術

- 美とは何か？
- 様々なイメージや感情、思いやメッセージは、どのように表現すれば良いのか？

### 保健体育

- どうすれば、心身の発達と健康の保持増進を図ることができるのか？
- どうすれば、上手に運動できるのか？

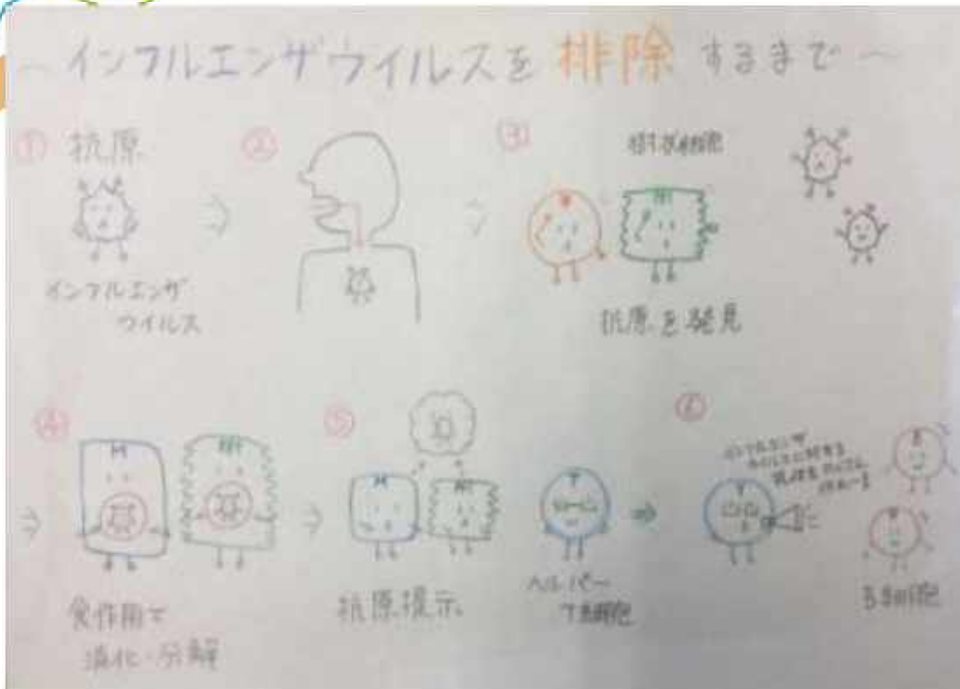
### 技術・家庭

- どのように技術を用いればよいのか？
- どうすれば、より望ましい生活を創造できるのか？

## (5) 教科におけるパフォーマンス課題の例

### ● 高校・理科

※実践校はいずれも実践当時(以下、同様)



あなたは、中学校に勤める養護教諭です。今日の授業で、インフルエンザにかかると体の中でどのようなことが起きるのか生徒たちに説明をする必要があります。説明の方法で紙芝居をしようと考えました。インフルエンザになったときの体の中で起きている免疫のはたらきを分かりやすく説明する紙芝居を作ってください。時間は、4分以内の紙芝居です。

(池恩燮・西尾泰志「生物基礎——免疫」京都大学大学院教育学研究科E.FORUM『「スタンダード作り」基礎資料集(第2集)』2017年、pp.149-152)



あなたは、製薬会社の研究員です。他社の解熱剤の有効成分と薬中に含まれる添加剤等を調べ、上司に報告することとなりました。各自(班)で実験を計画し、実施して報告してください。

(広島県立広島高等学校 福本洋二先生の実践)

(西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集』学事出版、2020年)



## ●小学校・算数

- 11月のスマイル高倉のお楽しみコーナーとして、「おもしろ科学実験&工作」のコーナーを保護者の方々が企画していて、それを理科室でするか、理科室前の廊下でするか迷っています。いっぱい人が入ってほしいから、広い方でほしいそうです。どちらが広いかを求めて提案しましょう。

(京都市立高倉小学校 上杉里美先生の実践。田中耕治編著『パフォーマンス評価』ぎょうせい、2011年、pp.70-71。ただし、文面を一部変更した。)

- 折れ線グラフ発表会をします。折れ線グラフで表されるような変化のデータを見つけて、折れ線グラフを書きましょう。また、その折れ線グラフから読み取れることについて、説明文を書きましょう。友達が「おお〜っ、面白い!」と言ってくれるような変化を紹介できるといいですね。

(京都市立高倉小学校 齋藤大介先生の実践を参考にした)

## ●中学校・数学

- あなたは建築設計師で、マンション購入者からの次のような依頼を受けました。「私が購入したマンションの床と天井が平行ではないように思うんです。確かに床と天井が平行であるか調査してください」あなたは確かに平行であることを必要最低限の調査費用で購入者に明瞭な理由を示し、報告書を作成しなければなりません。報告書には、簡潔・明瞭な説明と図、及び必要経費を記載する必要があります。なお、課題解決に使用できるものは、正確な角を測ることができる分度器1つ、伸縮自在の高性能メジャー(10mまで測定可能)一つのみで、分度器、メジャーとも1回の測定につき、使用料金は1万円です。

(神原一之先生の実践。西岡加名恵・田中耕治編『「活用する力」を育てる授業と評価』学事出版、2009年、p.49)

## ●高校・数学「文化祭の看板」

博伸くんの高等学校では、文化祭の看板を学校の屋上から垂れ幕にして設置することにしました。看板は多くの人が行き交う道路から見える高さに設置したいと考えています。しかし、校舎と道路の間には三高会館が立っています、そこで博伸くんは、道路から看板が見えるようにするため、校舎の高さと地上からの看板の高さについて考えました。[中略]あなたが博伸くんなら、道路から看板が見えるようにするため、どのように看板を設置すると考えますか。その「看板の高さを求める方法」を説明しなさい。

看板の高さの「求め方」を説明しなさい。

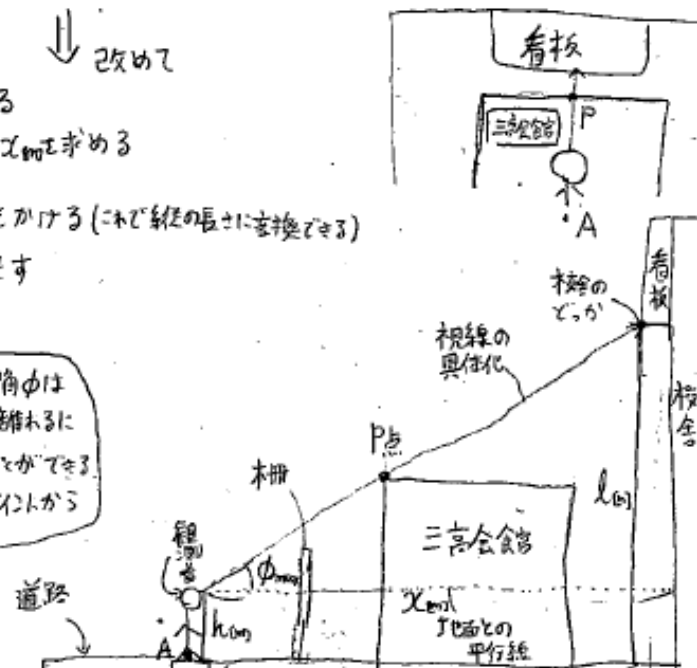
- ① 道路の一番三高会館に近いポイント(図のA点)から、三高会館上のP点、校舎のどこかを通過した視線を送る。その時の仰角を $\phi_{max}$ と置く。(三高会館の左端上)
- ② 校舎から自分までのキリ( $x_{low}$ )を測る。
- ③  $x_{low}$ に $\tan \phi_{max}$ を求め、 $x_{low}$ にかける。
- ④ 自分の身長(図の $h_{low}$ )を足す。\*この測定には、校舎で一番低い人を選びますとかなり効果大。

⑤ 求まりました。

↓ 改めて

- ① 仰角 $\phi_{max}$ を求める
- ② 自分と校舎とのキリ $x_{low}$ を求める
- ③  $x_{low}$ に $\tan \phi_{max}$ をかける(これを斜辺の長さに変換できる)
- ④ 自分の身長 $h_{low}$ を足す
- ⑤ 求まりました。

道路のA点に立つことで、仰角 $\phi$ は最大となっている。建物が遠ざかるにつれて $\phi$ は小さくなり、見るこができた。つまり、一番負担が大きいポイントから考えるといい?



(中木俊宏「身近な場面を『数学化』して考える——单元『図形と計量』」西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価 実践事例集』学事出版、2020年、pp.91, 94)







● 中学校・英語

「My Opinion」(中2)

My Opinion

Theme: Baseball is popular in Japan.

I think baseball is popular in Japan.  
 Because there are many professional baseball fans in Japan.

Besides there are many children playing baseball.  
 I think this is because they like baseball.  
 So I think baseball is popular in Japan.  
 I like watch baseball very much.

Thank you.

「私の尊敬する人」(中3)

Practice English

Tezuka Osamu

I want to say about Tezuka Osamu is a cartoonist. He who drew Astro Boy, Black Jack, etc is the most famous cartoonist in Japan. His name is known to everyone. I like his comics. I respect him. He was born in Osaka. He wrote many comics when he was a student, but he was teased by friends. He drew "The New Treasure Island" that had greatly influence on Fujiko Fujio and Ishinomori Shotaro. Tezuka Osamu married and his wife had a baby boy in 1959. And he built The Insect Production and drew Astro Boy, The King of the Lion. But later, The Insect Production went bankrupt. But he did never give up, and he drew Black Jack that was a very hit comic. It's popular and famous in Japan. And he visited many schools to appeal importance of life to many students. But he had a stomach cancer while he appealing importance of life. But he didn't stop it. I think it was very great. But he died in 1989. The news made many people surprised and sad. But his comics is read by many people. When I knew this story, I was very impressed. Because I think his life was very great. His comics made us moving. So I'm going to read his comics all the time.

(森千映子先生の実践。西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.150)

## ●小学校・国語

「クラブPR隊になって、3年生にクラブ活動の様子を伝えよう」



(京都市立梅小路小学校 山口信也先生の実践)

## 「わが町ビフォーアフタープロジェクト」

あなたたちは、この町の役場の人です。この町を誰もが暮らしやすい町にするために2週間後に、「わが町 ビフォーアフター プロジェクト」を立ち上げることになりました。この町で多くの方が困っていると思われる場所をどのように改善できるか、ポスターセッションをした中で一番理解が得られた提案をプロジェクトの企画案にします。現状写真と改善デザイン画を提示しながら、自分の提案について町の人に理解が得られるようにアピールしてください。

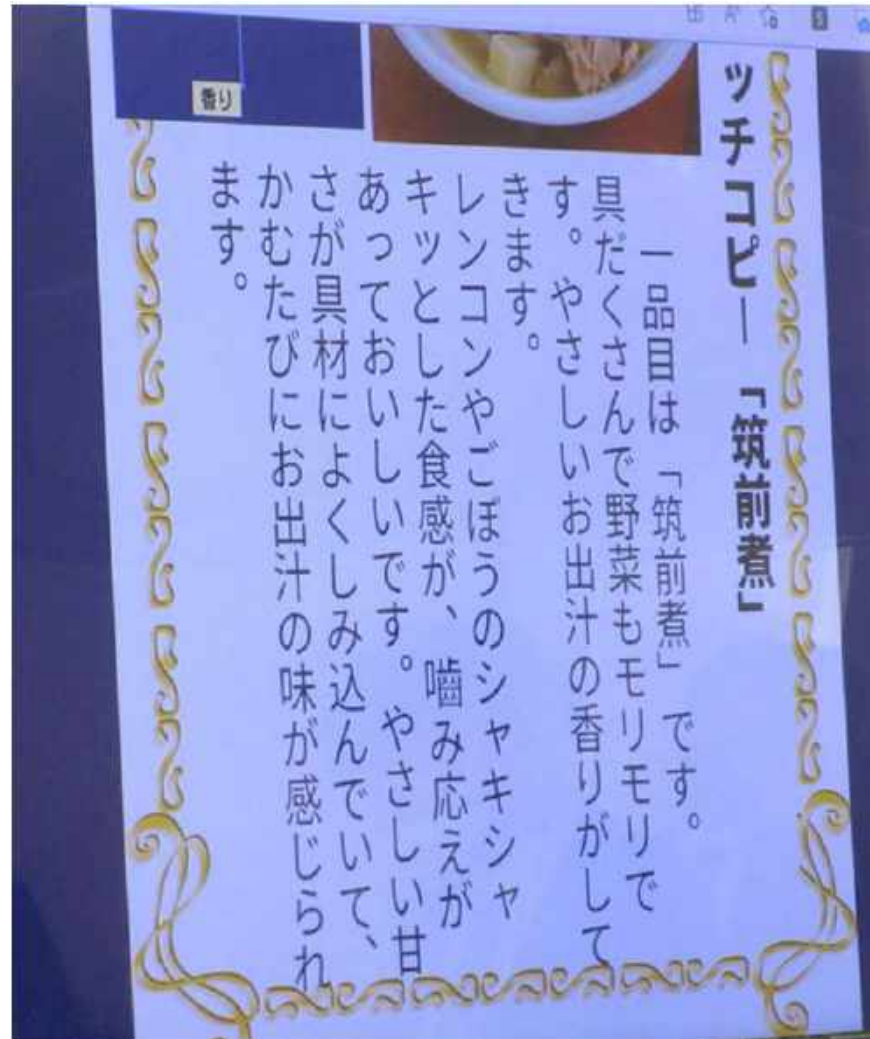
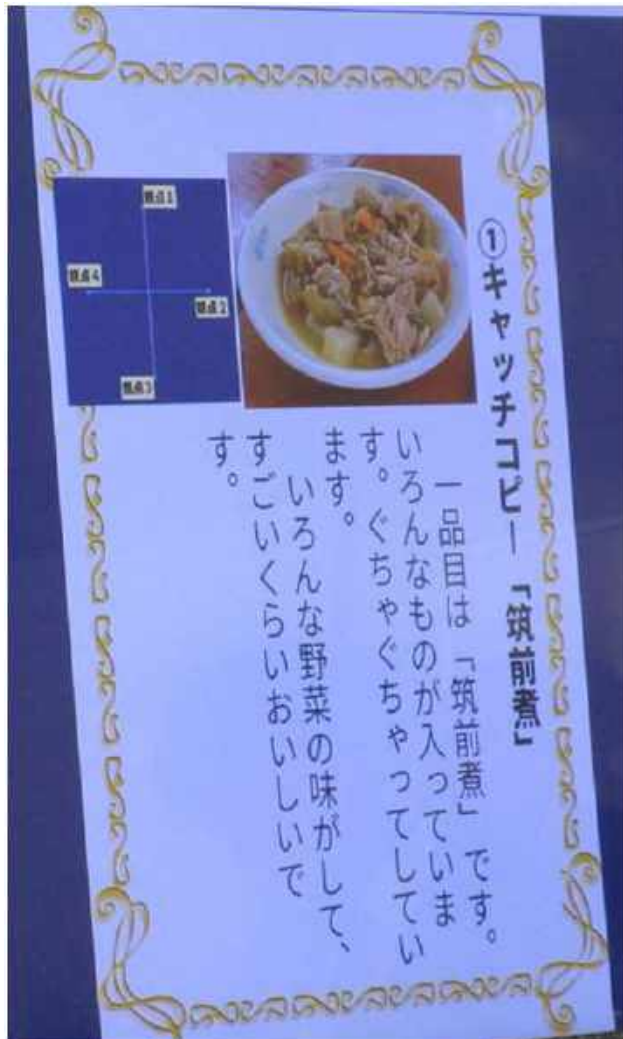
(足立素子先生の実践。八田幸恵「E.FORUMスタンダード(第1次案):小学校国語」

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/>)

## ●中学校・国語

「『給食ミシュラン』の編集者として給食の魅力が伝わる雑誌の誌面を、  
比喩表現を効果的に活用して作成してください」

(京都市立凌風中学校、山口瞭介先生の実践)



(西岡加名恵編、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター監修  
『世界と日本の事例で考える学校教育×ICT』明治図書、2023年、p.16)

# ●高等学校・国語：「山椒魚」

(大阪教育大学附属高等学校、河田良子先生、2015年11月7日)

この作品で作者は何を訴えたかったのか


なぜ蛙は山椒魚に閉じ込められたのに、最後に怒ってはいないと言ったのか

山椒魚は何を意味しているのか

山椒魚や小えび、蛙にはどのような意図が込められているのか

山椒魚にまぶたはあるのか

最初と最後の苔の描写は何を意味しているのか



## ●高等学校・国語：「若狭高校PR用Web CM企画を校長先生にプレゼンテーションしよう」

あなたは、WebCMプランナーです。若狭高校校長から「学校PR用のWebCM」を作成して欲しいという依頼を受けました。中学生の本校志願者を増やすことに貢献するWebCMの作成企画案を校長にプレゼンテーションすることがあなたの目的です。

あなたは、1 誰をターゲットにするのか。2 なぜそのような内容・構成のCMにするのか、について、校長に納得いく提案を行わなければなりません。提案は教室において、他の提案者のいる中で、校長に口頭で行います。図や表、動画を提示することは可能です。校長に6分で説明した後に、4分間の質疑応答時間を設けます。

評価は、次に示す評価基準表に基づき、評価を行います。（生徒に示した評価基準表は、後出）

評価の観点は、以下の5つです。

ア 根拠となる情報の収集・吟味    イ 論拠と主張

ウ 構成・話し方・発表分担    エ 補助資料    オ 質問への回答

（渡邊久暢「実社会につながる、ことばの学び」西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年）



●中学校・美術科

「『真の自分』を発見し、表そう」

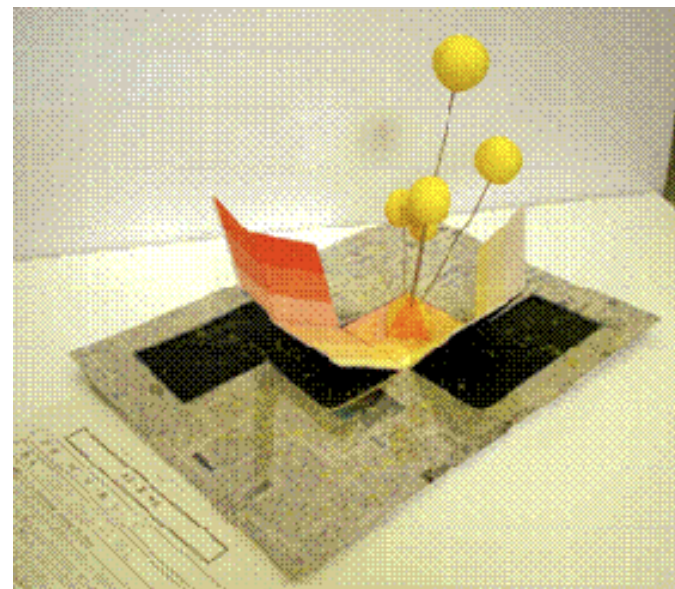
(福岡教育大学附属福岡中学校 武田巨史先生)



題名「Don't Know  
At All」→

←題名「私」

(西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.97)



↑題名「閉ざされた心」





# ●工業教育（電力技術）「照明設計」

あなたは照明調査の仕事をする事になりました。3~4名のチームで可見工業高校の各実習室の照度測定を行い、照度基準に適合しているか確認下さい。また、適合していない場合は照明器具を何台、どのように配置すれば基準を満たすかを調査しレポートにまとめ下さい。

調査結果のレポートは、多くの先生やPTA役員が見ることになるので、照明器具の台数がなぜそれだけ必要なのかを、図や計算結果等を用いて論理的に説明して下さい。このレポートの結果によって、照明器具を購入するかどうかを検討します。

(岐阜県立可見工業高校 河合英光先生の実践)

## ※生徒たちの声

パフォーマンス課題は、  
わかっていいと思います。  
授業で聞いて話をただでなく、  
体験をした方が、その授業を楽しく  
できまし、覚えやすいと思います。

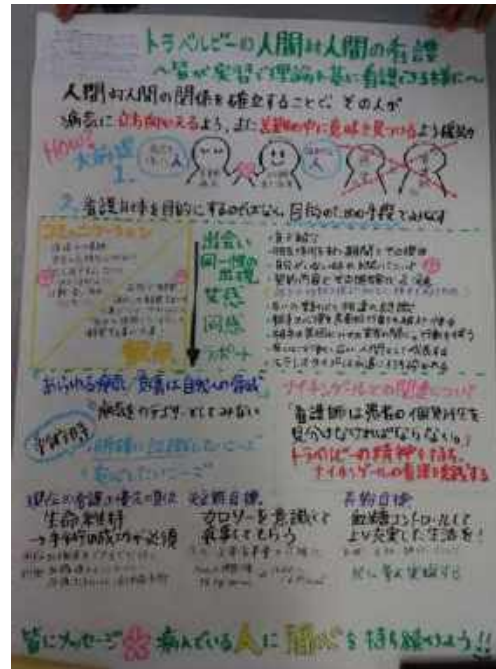
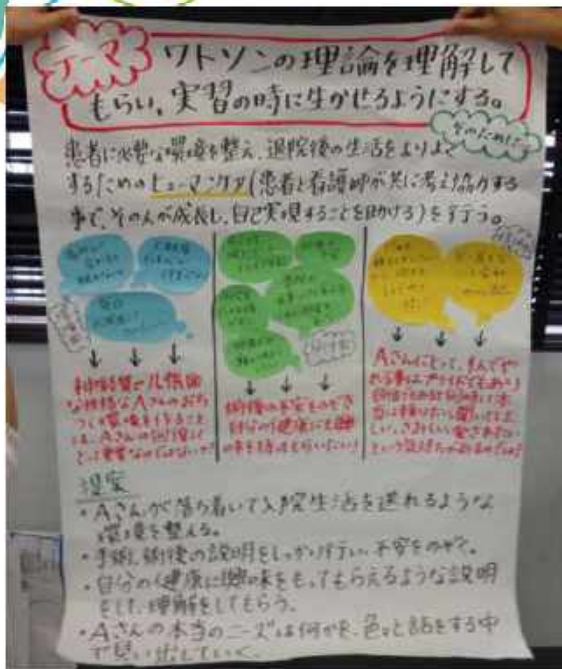
パフォーマンス課題は、  
僕自身の意見ですが、速く  
良いものだと思います。  
授業やテストでは判断  
できないような個人、個人  
の細かい部分まで言評価で  
きることは良いものだと  
思います。出来ることなら  
来年から必修にしていいこ  
ほしいと考えました。

パフォーマンス課題では、自分達で教科書や  
ネットから情報を調べ、取り組むので良かった。  
僕的には、メンバーの人数と機械(物)を用いて  
測定し、そこから計算して求める照明の  
パフォーマンス課題の持ちが良かった。

良かったです。この授業では、パフォー  
マンス課題というものをやり、それをやる  
ことによって、自分の家の電気はこうな  
っていて、学校の電気でこんな  
明るいなど、今まで気にしていなかった  
ことを意識するようになり、今では、  
とても電気に興味がわきました。

# ●看護教育

(糸賀暢子・元田貴子・西岡加名恵『看護教育のためのパフォーマンス評価』医学書院、2017年)



## 「本質的な問い」

◎どのように看護を構想すればよいのか？

○この科目で学んだ看護の理論を踏まえると、どのような看護を構想できるのか？

## パフォーマンス課題

この科目では、ワトソン、トラベルビーといった様々な理論家の理論を学びます。具体的な患者像を踏まえ、それらの理論家の理論を応用すると、どのような看護を構想できるのかについてグループでまとめ、プレゼンテーションを行いなさい。

## (6) パフォーマンス課題の位置づけ方 ◎パフォーマンス課題を位置づけた単元の展開例

The image shows a screenshot of the Japanese Cabinet Office website. The top navigation bar includes the Cabinet Office logo, a search bar with 'English' selected, and menu items for 'Cabinet Policy', 'Organization and System', 'Publicity and Reporting', 'Activities and White Papers', and 'Information Provision'. The breadcrumb trail indicates the path: 'Cabinet Office Home > Cabinet Policy > Science and Technology Innovation > Strategic Innovation Creation Program (SIP: Es-Ai-Pi)'. The main heading is 'Strategic Innovation Creation Program (SIP: Es-Ai-Pi)'. A blue arrow points from the breadcrumb 'Science and Technology Innovation' to a detailed view of the SIP website. This detailed view features the SIP logo and title, a search bar, and navigation tabs for 'Introduction of Research Topics' and 'Research Topic Results'. The main banner reads 'Construction of a Platform to Realize Learning and Working Styles in the Post-Coronavirus Era'. Below this is a 'New Information' section with a news item dated November 10, 2023, about a kick-off meeting. A sidebar on the right contains a 'Introduction of Research Topics' section with a link to the banner topic and a 'New Information' link.

# ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築

## 実施体制図 <各サブ課題を担う研究開発責任者一覧>

※赤：テーマ担当（主） 青：テーマ担当（副）  
（敬称略）

### サブ課題A 「新たな『学び』」のデザイン開発

a-1 アップスキルとリスキルのための教育コンテンツの開発 (デジタル・STEAM等に係る知識)		a-2 探究力・主体性・創造性・協働性を高める教育コンテンツの開発	
1 STEAM教育のためのコンテンツプラットフォームの構築 京大 緒方	2 デジタルリスキングの教育手法の開発 京大 松下 / 北大 長谷山	1 学校教育における探究力・主体性・創造性・協働性を高める教育コンテンツの開発 京大 松下 / 広大 草原 / 京大 緒方 / 高知大 大島 / 北大 吉野	
a-3 学習データの取得・連結・活用 (w/ELSI)		a-4 「新たな『学び』」に対応した評価手法の開発	
1 学習データの取得・連結・活用手法の開発 京大 緒方	2 データ取得等に係るELSI的観点での研究開発 京大 緒方	1 「新たな『学び』」に対応した評価手法の開発 京大 緒方 / 京大 松下	

### サブ課題D 「新たな『学び』」×働き方×バーチャル空間における有効性確認 (ショーケースの提示)

d-1 新たな学び方・働き方を可能とする場（プラットフォーム）の構築及び当該場（プラットフォーム）を活用した取組に係る効果検証		
1 初等中等教育を中心とした「新たな『学び』」の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証 北大 吉野 / 京大 緒方	2 教育機関と地域・社会との接続による「新たな『学び』」の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証 北大 長谷山	3 教育機関と地域・社会との接続による新たな働き方の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証 室工大 山中 / 北大 吉野

### サブ課題B 「新たな『学び』」と働き方との接続

#### b-1 多様な働き方モデルの構築及び主体的なキャリア形成の促進、D&Iの社会浸透

1 生涯学習プラットフォームの構築・環境整備による主体的なキャリア形成に係る研究開発・実証 高知大 大島 / 京大 緒方 / 広大 草原 / 筑波大 原田	2 D&Iの社会浸透に向けた実証研究 お茶大 石井 / 産総研 依田 / 高知大 大島 / 筑波大 原田
--	---

#### b-2 イノベーション人材の育成、社会人のリカレント、リスキング

1 総合知で社会を変える博士人材育成プログラムの実証 北陸先端科学技術大学院大 永井	2 学習者間のネットワーク構築等による社会人の学び直しのインセンティブの研究 高知大 大島
---	--

### サブ課題C 「新たな『学び』」と働き方の空間の創出

#### c-1 ギャップフリーなバーチャル空間の実現

1 「働き方」におけるバーチャル空間の開発 (株)テレワークマネジメント 田澤 / 筑波大 原田	2 「学び方」におけるバーチャル空間の開発 京大 緒方 / 筑波大 原田
---	---

#### c-2 バーチャル空間における学習コンテンツの開発

1 バーチャル空間を活用した学習コンテンツの開発・実証 東大 能智 / 京大 緒方 / 広大 草原 / 筑波大 原田
---

# 研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」(研究開発責任者 京都大学・松下佳代教授)

## プロジェクト全体の構図

### 研究開発③:実践者の探究指導力育成研修の開発 (チームA:全体統括)

チームB・C・Dの成果を集約し、京都大学大学院教育学研究科E.FORUMにおいて研究会・研修会などを開催。「目標設定→指導と学習→データ収集→評価→改善…」というサイクルを効果的に回し、「資質・能力」をバランスよく育成できるカリキュラム・マネジメントを実現できる力量を教師たちに保障する。



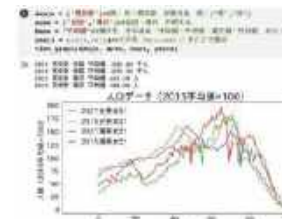
### 研究開発①:総合的な学習(探究)の時間等におけるデジタル・ポートフォリオを主軸とした評価システムの開発(チームB)



生徒の「探究」を支援し、長いスパンでの学びの経験のストーリーを紡ぐことを可能にするとともに、教師たちのカリキュラム・マネジメントにも役立つデジタル・ポートフォリオを開発する。

### 研究開発②:教科学習等におけるパフォーマンス課題を生かしたデジタル・コンテンツ開発

#### データサイエンス教育のコンテンツと評価手法の開発(チームC)



データを収集・整理し、多面的かつ批判的に解釈し、問題解決に取り組むことを可能にするようなコンテンツを開発し、データ活用力を伸ばす。

#### 4教科の教育コンテンツと評価手法の開発(チームD)



パフォーマンス課題の実践を容易にするコンテンツを開発、児童・生徒主体の授業を実現し、「思考力・判断力・表現力」を育成する。

### 単元： 小学校5年「電流がうみ出す力」（東京書籍・全11時間）

- ◆ 「本質的な問い」 ※◎は包括的な「本質的な問い」、○は単元の「本質的な問い」
  - ◎エネルギーが場に及ぼす影響は何か？
  - 導線に電流が流れるとどのような影響が生じるのだろうか？  
（電磁石とは何か？ 電磁石をより強くするには、どうすればよいのか？）
- ◆ 「永続的理解」
  - ・ 導線をコイル状に巻き、その中に鉄芯を入れ、電流が流れると、鉄芯に磁石のはたらきが発生する。このように磁石のはたらきをえる道具を「電磁石」という。導線に電流が流れる間だけ磁石のはたらきをもつようになる。
  - ・ 電磁石では、流す電流の量を増やしたり、コイルの巻き数を増やしたり、鉄芯を太くしたりすることで、磁石のはたらきを強くできる。

### ◆ パフォーマンス課題


- ・ 「風力最強のハンディファンをつくろう！」

4年生の自由研究で組み立てたハンディファンが壊れてしまった。分解してみると、原因は断線だった。暑い夏を乗り切るために、どうすれば風力をもっと強くするように改造できるかな？

（参考：G・ウィングズ、J・マクタイ著、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年）



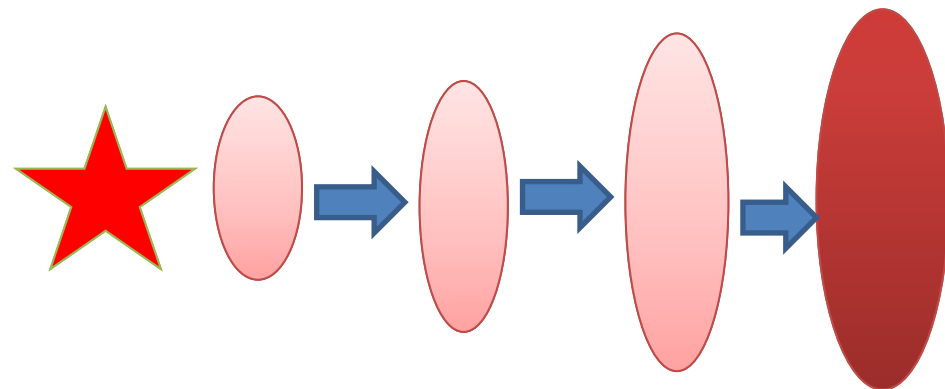
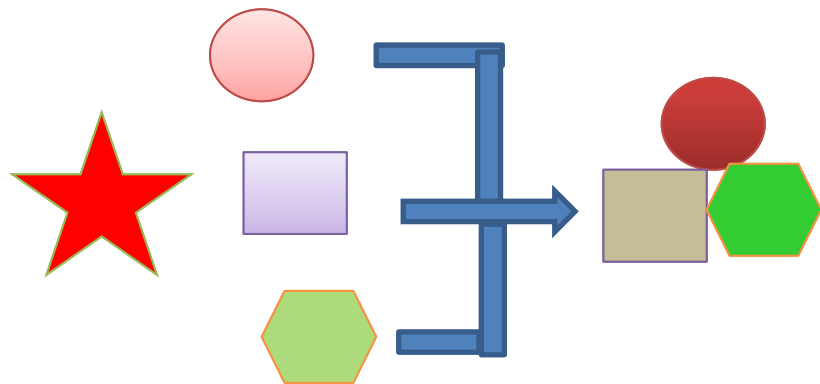
※松下佳代教授・奥村好美准教授（京都大学）、大貫守准教授（愛知県立大学）、TOPPAN株式会社との共同研究による開発。「本質的な問い」「永続的理解」と課題文については、西岡が一部、加筆した。



◎パフォーマンス課題の位置づけ方  
※単元内・単元間の構造

パーツ組立て型

繰り返し型



- 単元の導入の授業  
→パフォーマンス課題に向けて見通しを与え、動機づける。
- 単元の展開の授業  
→パフォーマンス課題に向けて、必要な力（知識、スキル、理解）を身につけさせる。
- 単元の締めくくりの授業  
→パフォーマンス課題の成果を発表し、さらに力を高める。

## (7)「総合的な学習(探究)の時間」の充実

### ◎児童生徒自身の課題設定による「探究的な学習」の重要性



兵庫県立尼崎小田高等学校、福田秀志先生の指導による防災についての演劇。



京都大学での「高大連携教育フォーラム」で報告された、兵庫県立農業高等学校の生徒によるポスター発表。指導は今村耕平先生。

(西岡加名恵「高校新学習指導要領「総合的な探究の時間」、3観点に即した評価のポイント——長期的な視点で指導や授業と評価を一体化へ」『東洋経済education×ICT』2023年1月19日。<https://toyokeizai.net/articles/-/645574>)



## ◎様々なタイプの「探究的な学習」

- ◆ SSHの課題研究だけでも、多彩な展開:「仮説-検証」型、「探究法・実験法・測定法開発」型、「制作・合成」型、「実地調査」型、「論証・証明」型、「文献研究」型  
(大貫守・福嶋祐貴「探究的な学習と協働的な学習における評価」西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2016年、p.113)
- ◆ 人文・社会科学系の探究については、量的研究だけでなく、質的研究もある。
  - ◆ (ウヴェ・フリック著、小田博志ほか訳『質的研究入門——<人間の科学>のための方法論』春秋社、2002年、pp.8-9)
- ◆ アカデミックな探究だけでなく、サービス・ラーニングの形で行われる探究もある。

- 地域活性化プロジェクト(「地域課題研究」):  
「身近な地域やそこに暮らす人々を幸せにする方法を提案・実践しよう!」

(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 塚田章裕先生)

- 商業科目「ビジネス情報管理」:ビジネス情報システムの開発(三重県立宇治山田商業高等学校 藤本英彦先生)



(西岡加名恵編『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年、及び西岡加名恵・大貫守編著『高等学校 「探究的な学習」の評価』学事出版、2023年参照)





## (8) ポートフォリオ評価法の活用

### ◎ポートフォリオ評価法

- ポートフォリオ：学習者（児童・生徒や学生）の作品や自己評価の記録、教師による指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

### ◎所有権 (Ownership)：収める作品や評価基準の決定権

学習者 ←—————→ 教育者

最良作品集  
ポートフォリオ

基準創出型  
ポートフォリオ

基準準拠型  
ポートフォリオ


(西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年)



## ◎「探究的な学習」と ポートフォリオ評価法



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭  
『総合と教科の確かな学力を育む  
ポートフォリオ評価法・実践編』日本  
標準、2004年)



## ◎取り組む上でのポイント

- ① 学習者と教師で見通しを共有する。
  - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
  - 何を残すのか？
  - いつ、どの期間で作るのか？
  - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する（整理・取捨選択する）。
  - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
  - 検討会で見せる作品を選ぶ。
  - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
  - 見通しを持つ。
  - 到達点と課題、次の目標を確認する。
  - 成果を披露する。

ポートフォリオは、  
単なるデータベースでは  
なく、子どもたちが自身  
が、自らの学びのストーリーを  
紡いでいくもの

## ◎大学入試でポートフォリオが使われる例

Cf.「AOと推薦による全国の大学入学者は21年度に50.3%と初めて半数を超えました。」  
（「偏差値時代終焉へ、大学一般入試なぜ減少？」『日本経済新聞』2022年8月15日）

### (例) 京都大学教育学部の特色入試

<第1次選考>書類選考

「学びの報告書」「学びの設計書」

平成28年度京都大学特色入試

教育学部用

### 学びの報告書

※

※印の欄は記入しないでください。

志願者氏名

(フリガナ)

以下の項目について、志願者自身が黒のペン又はボールペンを用いて自筆で記入してください(パソコン等で作成したものは不可)。  
【1】 中学時代から現在までに取り組んだ「まなび」の活動(各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等)のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。また、その成果を示す資料(表彰状、論文、研究発表資料、新聞記事等、いずれもコピー(A4判)にて可。)を添付する場合は、対応する資料番号を明記してください。

時期	活動内容	資料番号

<第2次選考>

課題と口頭試験

<第3次選考>

センター試験／共通テスト



「様々な活動をまとめてみることで、活動の間にあったつながりや自分の特長に気づきました」(大平優斗さん)、  
「自分が達成できたことや自分の価値観の変化にも気づき、将来、挑戦したいことを思い描くことができました」(小山田遥さん)



### 3. 教科における成績づけ(評定)の在り方

#### (1) 「観点別学習状況の評価」欄における「観点」の設定

#### ◎2010(平成22)年改訂指導要録

- 「目標に準拠した評価」は既に定着。
- 指導要録の観点別評価：4観点から3観点へ(「思考・判断・表現」)

#### ①習得

・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

#### ②活用

・ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

#### ③態度

・ 主体的に学習に取り組む態度

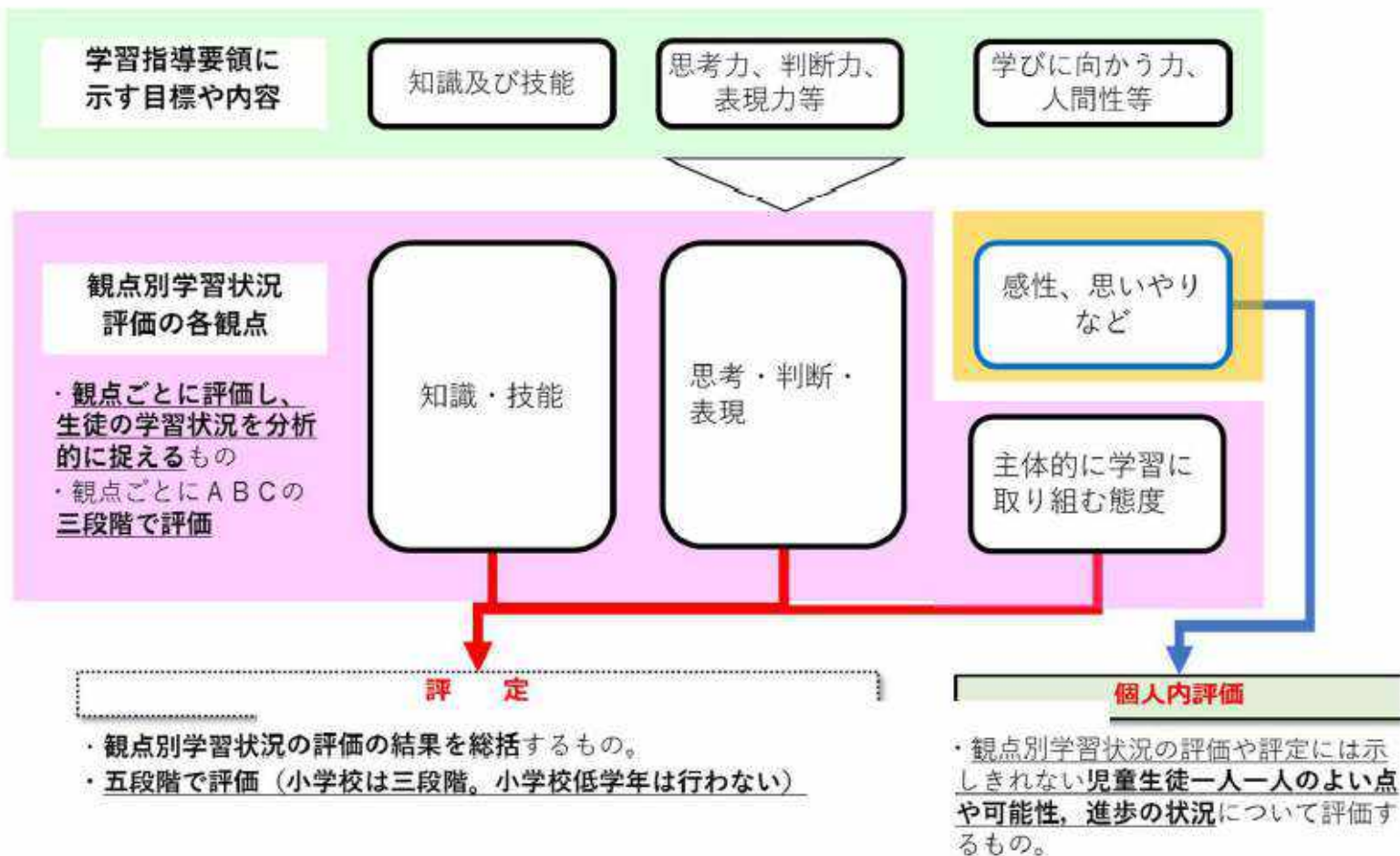
▲ 観点「関心・意欲・態度」を観点「思考・判断・表現」と統合することを主張したが、採用されず。

(中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ、2009年6月～2010年3月)

# ◎2019(平成31)年改訂指導要録

## 各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」  
2019年1月21日）

## (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

### コラム

「主体的に学習に取り組む態度」は、「関心・意欲・態度」と同じ趣旨ですが…  
～こんなことで評価をしていませんか？～

平成31年1月21日 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価について指摘されている課題として、「関心・意欲・態度」の観点について「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的

に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。これを受け、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。

Column

「評価の観点のうち『主体的に学習に取り組む態度』については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。」(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

(国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編／高等学校編)」  
2019年6月14日)

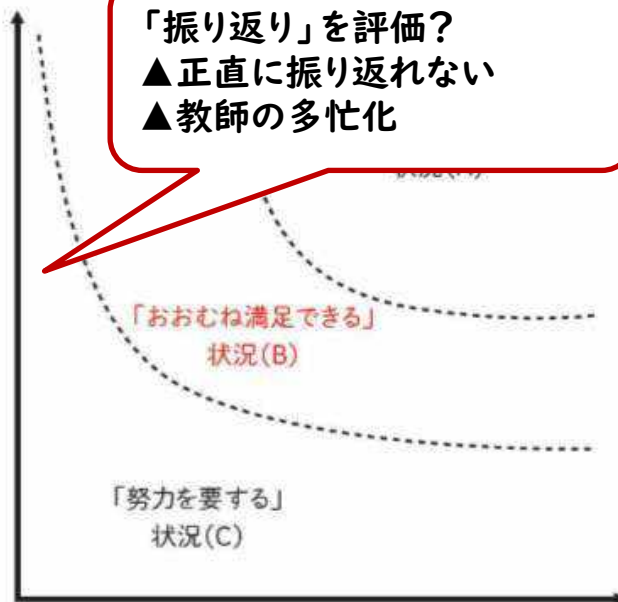


## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

②自らの学習を調整しようとする側面




①粘り強い取組を行おうとする側面

ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

## 「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

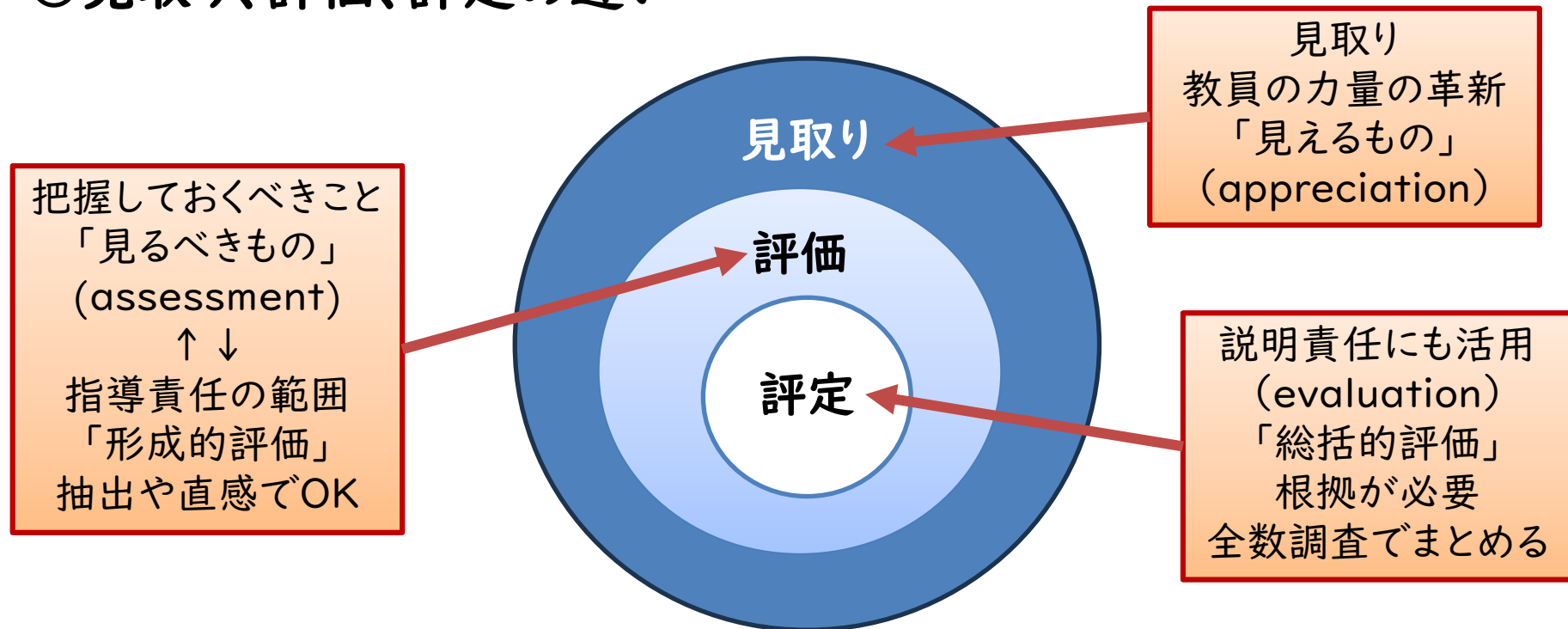
形式的な活動？！



## ◎「主体的に学習に取り組む」態度の成績づけ

- 現場の先生方は、非常に悩まれている。
- 特に、3観点を3分の1ずつの重みづけで評価するように教育委員会が指導している都道府県では、大きな混乱（困難、形骸化）が生じている。

## ◎見取り、評価、評定の違い



## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

## 「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

## ◎「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどうするか？

※本来、「思考・判断・表現」と表裏一体なので、**便宜上、区別するしかない。**

- 案1：小規模なパフォーマンス課題で「思考・判断・表現」を、学習者自身が授業内容を発展させて取り組むようなパフォーマンス課題で「主体的に学習に取り組む態度」を見る？
- 案2：1つのパフォーマンス課題で、2つの観点を見る？

表

表3 課題「私が尊敬する人」のルーブリック

		内容	英語表現
A	4	自分の感じたこと、考えたことなどを、理由や例をあげ、自分のことと関連づけながら伝えようとしている。	かなり長い英文が、少しの間違いはあるものの、ほぼ正確に書けている。また、自分の考えを伝えるための適切な表現をしている。
	3	自分の感じたこと、考えたことなどをはっきりと伝えようとしている。	それぞれの文は短いですが、適切な表現を用い、語順などが正確に書けている。
C	2	調べた事実はわかるが、自分の考えがあまり伝えられていない。	単純な文は書けているが、少し複雑になると適切な表現が用いられておらず、語順などに正確さを欠く。
	1	調べた事実も内容が乏しく、自分の考えが伝わってこない。	全体的に語順が不正確で、適切な表現が用いられていない。大文字、小文字、符号なども不正確な部分が少なからず見られる。

(森千映子「自分の考えを自分の言葉で表現する」西岡加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書, 2008年, p.114)

※「思考・判断・表現」の観点と統合してしまえば、解消される悩み！

## ◎本来、育てるべき「主体性」とは？

### ◆「主体性」のタキソノミー

(学びや活動への関与と所有権の拡大のグラデーション)

特別活動	自治(変革人:エージェンシー)	社会関係を創りかえる
		対象世界を創りかえる
総合学習	人間的成熟(なりたい自分:アイデンティティ)	軸(思想)の形成
		視座の高まり
総合学習	自律(探究人:こだわり)	自分事への問いの深化
		問いの生成
総合学習	学び超え(生涯学習者・独立的学習者)	思考の習慣(知的性向)
		関心の広がり
教科学習	学習態度(自己調整学習者・知的な初心者)	方略的工夫
		試行錯誤
教科学習	関心・意欲	積極性(内発的動機づけ)
教科学習	表面的参加	受身(外発的動機づけ)

出口の情意

入口の情意

(石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化社、2023年、p.57)



## ◎「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方

- 各教科において、観点「主体的に学習に取り組む態度」は、観点「思考・判断・表現」に統合する。
  - 「主体的に学習に取り組まないと、成績を下げるぞ…」と言われて発揮される「従順さ」が、本当に目指したい「主体性」なのか？
  - 先生方の成績づけの悩みを減らし、児童生徒が真に主体的に思考・判断・表現できるような授業への改善にこそ、力を注ぐべき。

Cf. ICTを活用した際に残る「ログ」は、あくまで低次の「主体性」に過ぎない。  
→教師への忠誠競争、学校の同調圧力・圧迫感を強化する懸念。
- より高次な意味（エイジェンシー、アイデンティティなど）での「主体的に学習に取り組む態度」を育てたいという目標を設定するとすれば、**カリキュラム全体として育てているかを見る**べきであり、それが育てているかどうかは、「**総合的な学習（探究）の時間**」等での姿（**ポートフォリオ**）で見える。
  - 網羅的に見る発想から、最良の出来栄を見る（子ども自身が発信する機会を保障する）発想へ。
- どうしても「勤勉さ」を見たいなら、「行動の記録」欄を活用する。
  - 学業成績に合算してしまうと、学力の実態が捉えられない。

# ◎カリキュラム横断での力量形成

表5-9 イギリスにおける「より幅広い鍵スキル」のルーブリック (ASDAN, 2014を踏まえて筆者作成)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
他者との協働	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 与えられた目標を理解していることを確認し、一緒に作業するための計画を立てる</li> <li>● 与えられた目標の達成に向けて、他者と一緒に作業する</li> <li>● 自分が物事の達成を助けた方法と、他者との作業を改善する方法を確認する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者と一緒に作業する計画を立てる</li> <li>● 特定された目標達成に向けて、協同して作業する</li> <li>● 自分の貢献を再検討し、他者との作業を改善する方法について同意する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者と一緒に作業する計画を立てる</li> <li>● 協同を発展させようとし、同意された目標に向けての進展を点検する</li> <li>● 他者との作業を再検討し、将来の協同作業の改善方法に合意する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者と一緒に作業するための方略を開発する</li> <li>● 進展をモニタリングし、同意された目標を達成するための方略を適合させる</li> <li>● 自分の方略を評価し、他者との作業から得られた成果を提示する</li> </ul>
自分の学習とパフォーマンスの向上	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の目標を確認し、それを設定した人の支援をうけつつ、それらを達成する方法を計画する</li> <li>● 目標への達成を助けるために計画に従い、パフォーマンスを向上させる</li> <li>● 適切な人の支援を受けつつ、自分の進展と達成事項を再検討する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 適切な人の支援を受けつつ目標を設定するのを助け、それらを達成する方法を計画する</li> <li>● 目標を達成し、自分のパフォーマンスを改善する助けとするために計画を用いしつつ、自分の学習に関するいくつかの決定について責任を取る</li> <li>● 適切な人の支援を受けつつ進展を再検討し、自分の達成事項についての証拠を提供する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 適切な人々から得られた情報を用いて目標を設定し、それらを達成する方法を計画する</li> <li>● 目標を達成し、自分のパフォーマンスを改善する助けとするために計画を用いしつつ、自分の学習についての責任を取る</li> <li>● 進展を再検討し、自分の達成事項についての証拠を確立する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の学習とパフォーマンスを改善するための方略を開発する</li> <li>● 進展をモニタリングし、自分のパフォーマンスを改善するための方略を適合させる</li> <li>● 自分の方略を評価し、学習の成果を提示する</li> </ul>
問題解決	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 与えられた問題を理解していることを、適切な人の支援を受けつつ、それに取り組む様々な方法を明確にする</li> <li>● 自分が何をやるかについて、適切な人の支援を受けつつ確認し、問題解決のための計画に従う</li> <li>● 問題が解決されたかどうか、ならびに問題解決スキルをどのように改善できるかを、適切な人の支援を受けつつ点検する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 適切な人の支援を受けつつ、問題を特定し、それに取り組む様々な方法を明確にする</li> <li>● 問題解決のための方法を少なくとも一つ計画して試しにやってみる</li> <li>● 問題が解決されたかを点検し、自分の問題解決スキルを改善する方法を特定する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題を探究し、それに取り組む様々な方法を明確にする</li> <li>● 問題解決のための方法を少なくとも一つ計画して実施する</li> <li>● 問題が解決されたかを点検し、問題解決のための自分のアプローチを再検討する</li> </ul>	<p>志願者は、次のことができなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題解決のための方略を開発する</li> <li>● 進展をモニタリングし、問題解決のための自分の方略を適合させる</li> <li>● 自分の方略を表し、自分の問題解決スキルの成果を提示する</li> </ul>

# (3) 学校で育成する資質・能力の要素の全体像を捉える枠組み

(石井英真『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』日本標準、2015年)

能力・学習活動の階層レベル(カリキュラムの構造)		資質・能力の要素(目標の柱)			
		知識	スキル	情意(関心・意欲・態度・人格特性)	
教科等の枠づけの中での学習	知識の獲得と定着(知っている・できる)	事実的知識、技能(個別的スキル)	記憶と再生、機械的実行と自動化	学び合い、知識の共同構築	達成による自己効力感
	知識の意味理解と洗練(わかる)	概念的知識、方略(複合的プロセス)	解釈、関連付け、構造化、比較・分類、帰納的・演繹的推論		内容の価値に即した内発的動機、教科への関心・意欲
	知識の有意味な使用と創造(使える)	見方・考え方(原理と一般化、方法論)を軸とした領域固有の知識の複合体	知的問題解決、意思決定、仮説的推論を含む証明・実験・調査、知やモノの創発(批判的思考や創造的思考が深く関わる)	プロジェクトベースの対話(コミュニケーション)と協働	活動の社会的レリバンスに即した内発的動機、教科観・教科学習観(知的性向・態度)
学習の枠づけ自体を学習者たちが決定・再構成する学習	自律的な課題設定と探究(メタ認知システム)	思想・見識、世界観と自己像	自律的な課題設定、持続的な探究、情報収集・処理、自己評価	人間関係と交わり(チームワーク)、ルールと分業、リーダーシップとマネジメント、争いの処理・合意形成、学びの場や共同体の自主的組織化と再構成	自己の思い・生活意欲(切実性)に根差した内発的動機、志やキャリア意識の形成、
	社会関係の自治的組織化と再構成(行為システム)	人と人との関わりや所属する共同体・文化についての意識、共同体の運営や自治に関する方法論	生活問題の解決、イベント・企画の立案、社会問題の解決への関与・参画		社会的責任や倫理意識に根差した社会的動機、道徳的価値観・立場性の確立

※太字部分は、それぞれの能力・学習活動のレベルにおいて、カリキュラムに明示され中心的に意識されるべき目標の要素。

※認知的・社会的スキルの中身については、学校ごとに具体化すべきであり、学習指導要領等で示す場合も参考資料とすべきだろう。

情意領域については、評定の対象というより、形成的評価やカリキュラム評価の対象とすべきであろう。



## (4) 教科における学力評価計画(成績づけの計画)の立て方

### ① 観点と評価方法の対応関係を整理する (教科ごとの特性を踏まえる)

観点	評価方法	単元1	単元2	単元3	単元4	到達レベル(質)
思考力・ 判断力・ 表現力	—— パ課題		○	◎		到達レベル(質)
知識・技能	—— 筆記/ 実技 テスト	○	○	○	○	到達レベル(量)

類似の課題を  
少しずつレベルアップしながら  
繰り返し与える。

ループリック

チェックリスト

評価の観点と評価方法との対応関係についての  
決定権は、各学校にある。

### ◎ 学力評価計画を評価する視点

- カリキュラム適合性 ← 妥当性
- 比較可能性 ← 信頼性
- Cf. スタンドアード: 社会的に共通理解された目標・評価基準
- 公正性: 平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、公表と承認の原則
- 実行可能性

(西岡加名恵「教育評価の方法原理」田中耕治編『よくわかる教育評価(第3版)』ミネルヴァ書房、2021年)



## ②成績づけの場面を精選する


### ◎2010(平成22)年指導要録改訂

授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。

(文部科学省 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年)

#### Cf. 評価の3つの機能

- 診断的評価：  
指導の前の実態を把握するための評価。
- 形成的評価：  
指導の途中で、学習や指導を改善するために行う評価。
- 総括的評価：  
指導の一区切りごとに、達成状況を把握するために行う評価。  
成績付けに用いられる。



# ◎2019(平成31)年指導要録改訂

**Q1** 1回の授業で、3つの観点全てを評価しなければならないのですか。

**A.** 学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要です。

## 評価時期の工夫の例

- 日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

## 観点別評価の評価時期

- 単元や題材のまとまりごと ×毎回の授業
- 複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することも可能

(国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」2019年。  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>)

**※指導要録をつけなくてはならないのは、年に1回だけ。  
学期ごとの成績づけでは、年度末評価に向けた途中経過が分かれば十分。**

### ③長期的な見通しのもとで育成・評価する

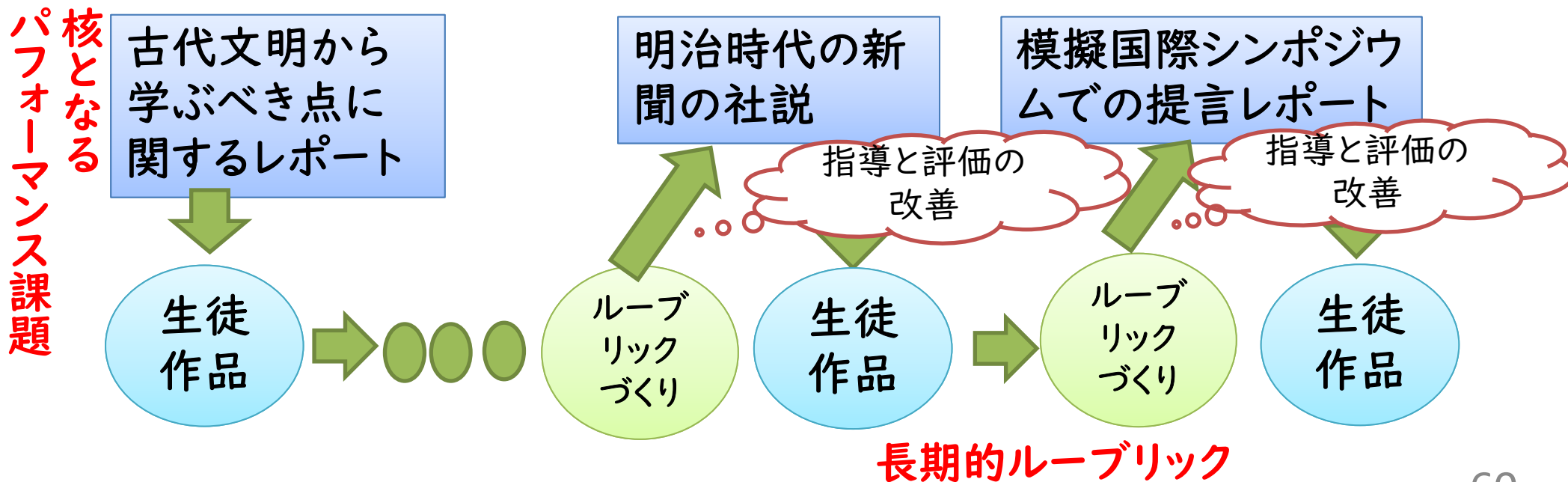
#### 「本質的な問い」の入れ子構造

中学校社会（歴史）：社会はどのような要因で変わっていくのか。どのように社会を変えていけばいいのか。

文明はなぜ生まれるのか。この時代の日本は他の文明から何を学ぶべきか。

明治維新によって日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

戦争はなぜ起こるのか。戦争を起こさない平和な国を保つためにはどうしたらよいか。





## ④評価基準としてルーブリックも活用する

### ◎ルーブリック

※ここではレベル2・4を省略

	因果関係を捉える思考力	
5	社会的な事象について、政治・経済・文化形などの構成要素から3つ以上の視点がとれる。これらの視点を総合的に関連づけて分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。	<b>観点</b> (分けなくても可)
3	社会的な事象について、政治・経済・文化形などの構成要素から2つ以上の視点がとれる。これらの視点を関連づけて具体的な根拠をあげて明確な主張をすることができる。	<b>記述語</b> (基準と徴候)
1	経済・文化・人口・地基本質を説明することができる。ただし、ただ述べることはできず、理由を述べなければならない。	<b>尺度</b> (数レベル程度)

アンカー作品を添付

## ◎ループリック作りの手順

- ①質にばらつきのある作品を集め（数個～20個程度）、  
できれば複数の評価者で、お互いの採点がわからないように、作品を採点する。  
→付箋紙にレベルを書いて、作品の裏面に貼る。



- ②似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。  
→まず、評価の（ほぼ）一致した作品について、レベルを確定。  
特徴を読み取って、記述語を作成する。
- ③評価が分かれた作品について、検討する。  
→評価が入れ替わる場合に、観点を分ける。

# ◎ルーズブリック作りから指導の改善へ ワークシート

第一次世界大戦の学習を終えて、起きた要因を分析したワークシート

64年生社会科授業ワークシート NO22 組 氏名

今日の授業で学ぼう ①なぜ第一次世界大戦が起きたのか、なぜ拡大したのか？  
②第一次世界大戦は世界や日本人々にどんな影響を及ぼしたのか、について理解したことを表現する。

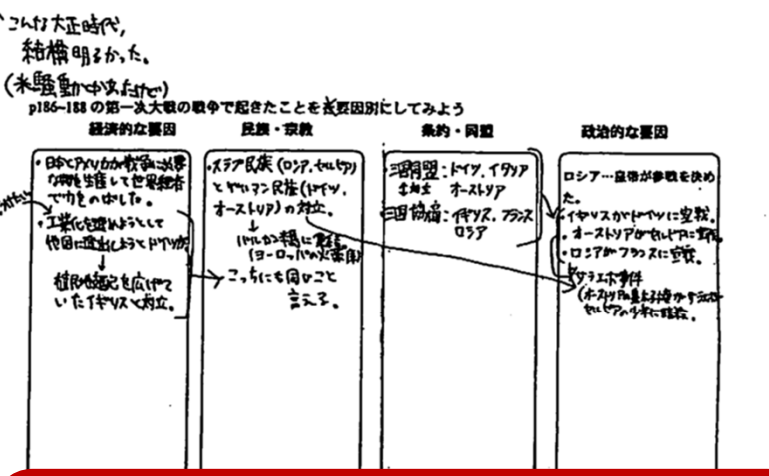
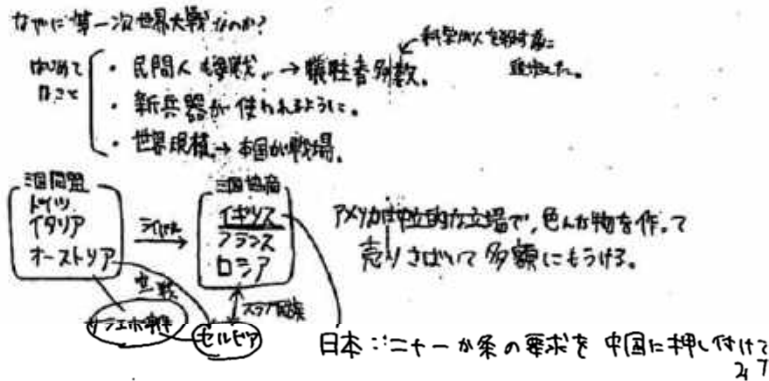
【戦争に関係のある要因を分析しよう】 何が原因か、何がきっかけか、

- 経済的な原因 (例) 貧民をよくしたい、利益を得たい。
- 民族・宗教の違い
- 条約・同盟を結ぶ…お互いの共通の利益のために輪になることを約束する。
- 政治的な原因…その国の外交政策、国内の政策や方針。

186-199 シ 125 ~

年	世界の動き	日本の戦争と民主化への動き
1912	ソビエト連邦が成立	(大正元) 第一次産業革命 (機械化の普及)
1914	サラエボ事件	大正11年 ロシアがシベリア出兵
1915	第一次世界大戦がおこる	中国に二十一条の要求を出す
1916	戦況はヨーロッパ大陸。	野田が日本主義を主張する
1917	ロシア革命 ソビエト社会主義共和国連邦成立	大正15年モロコシ (大戦終結)
1918	アメリカがドイツに宣戦	大正16年 原敬が初めて衆議院議員から首相になる
1919	ヴェルサイユ条約 (同盟国が降伏)	シベリア出兵 (ソ連の社会主義をおさへし) → 国民、民主etc...でか
1920	ワシントン会議 (海軍軍縮)	日本へ要求 (自由、平等、主権) 出てる。(民衆中) 選挙制度
1921	ワシントン会議 (軍縮会議)	第二次産業革命 (電機産業の発達)
1922	ドイツは植民地とりあげられて、多額の賠償金を求められる。	関東大震災
1923		第二次産業革命 (電機産業の発達)
1925		第二次産業革命 (電機産業の発達)

経済的な要因 民族・宗教 条約・同盟 政治的な要因



なぜ第1次世界大戦が起きたのか？ (拡大したのか?) 最も大きい要因は何か?

なぜ第一次世界大戦が起きたのか、なぜ拡大したのか？ 4つの要因から説明してみよう。一番大きい要因はなんだと思いますか？

条約・同盟が最大の原因だと。

→ 民族、宗教的な問題で争いが起きたとしても、つぎつぎが無ければ大きくはならないから、戦争が拡大した第一次世界大戦と行ったのだと思う。(つぎつぎがあるから)

(三藤あさみ先生提供)



## 授業の様子「模擬国際シンポジウム」

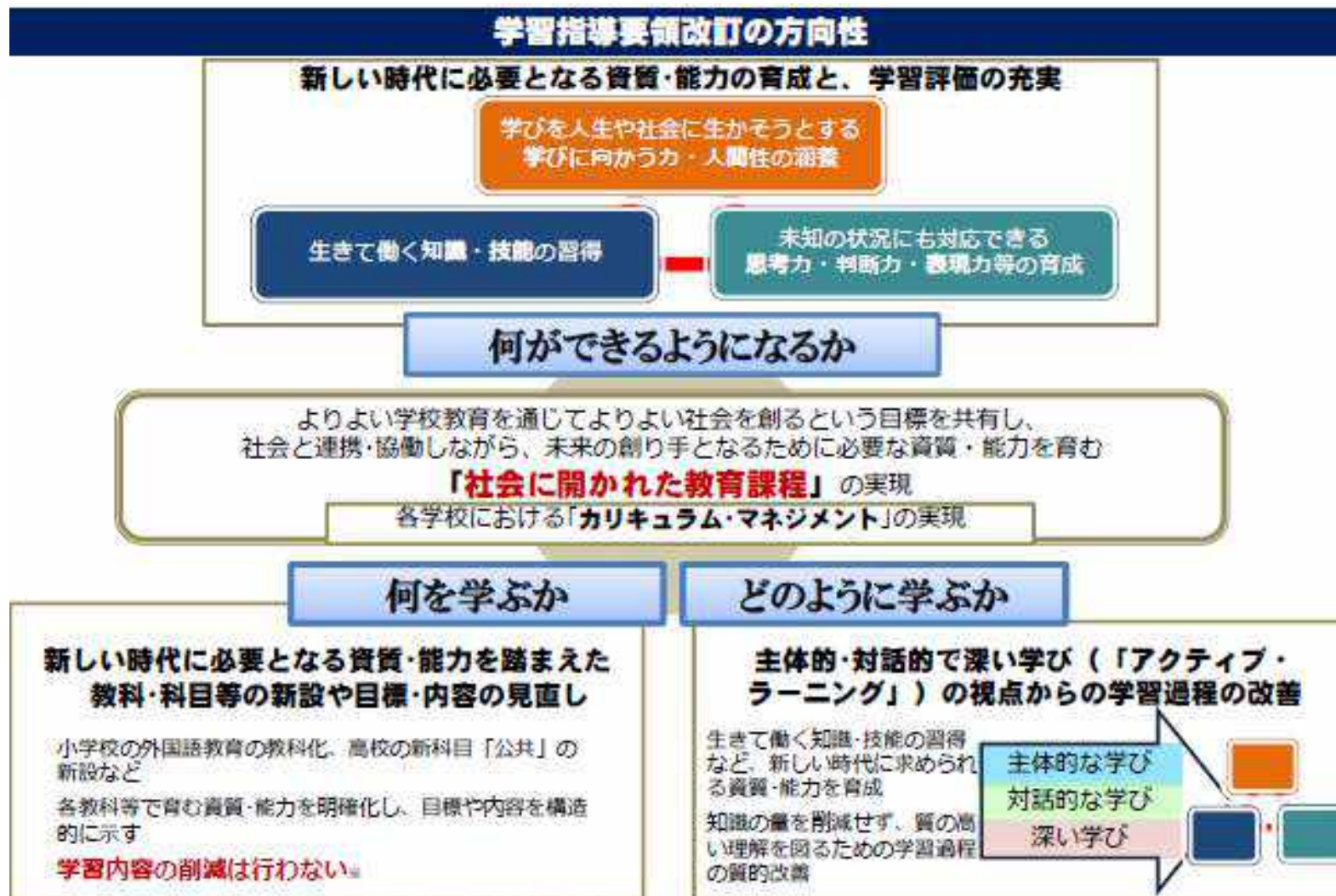


(三藤あさみ先生提供。三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』  
日本標準、2010年も参照)

# 4. カリキュラムと評価の改善を促進する仕組みの構築

## (1) 各学校のカリキュラム・マネジメントの重要性

©2017・2018年改訂学習指導要領の方向性



※ 高校教育については、従来は学歴的知識の暗記が大学入學選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、基礎用語の整理等をめじた高大接続改革等を進める。

6

（中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016年12月21日）

## ◎教育課程（カリキュラム）の編成主体

「各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。」

「各学校においては、……教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。」

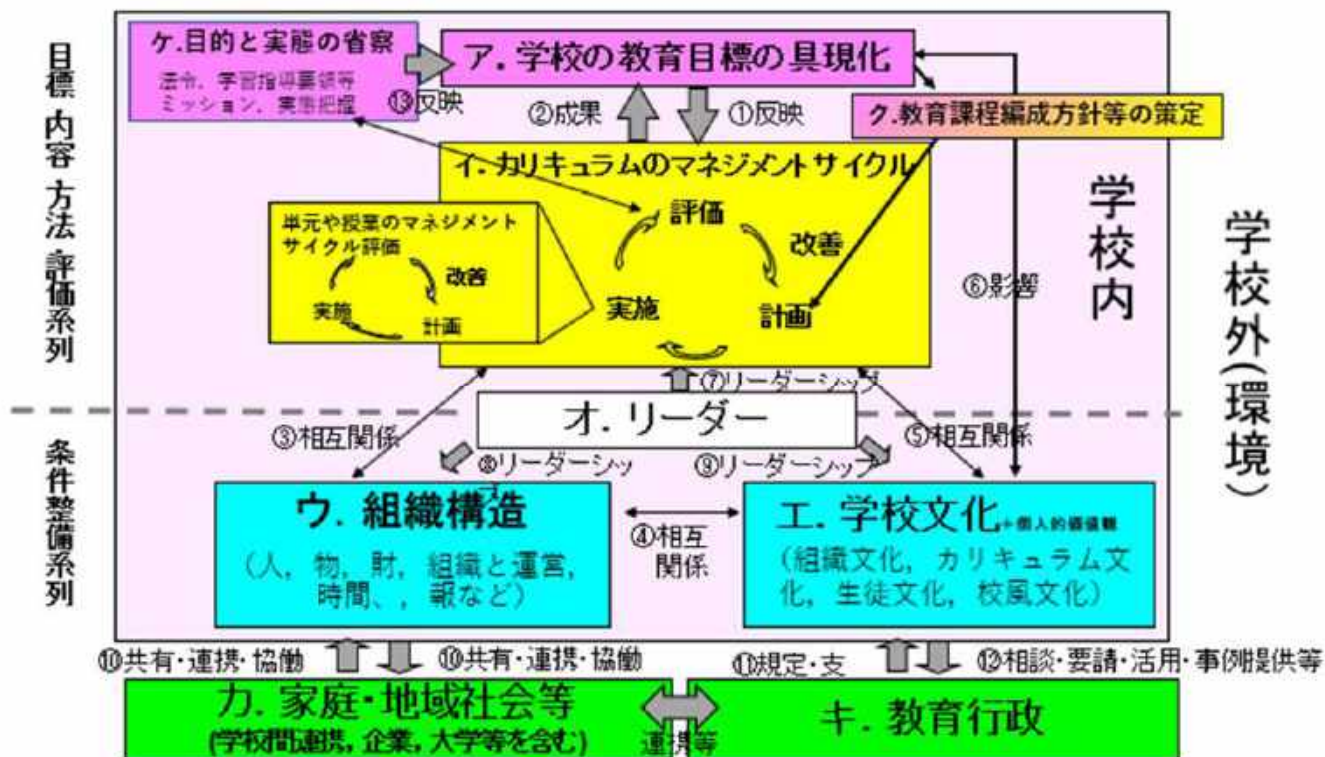
（『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017年。下線は引用者）

## ◎カリキュラム・マネジメント

「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営みである。」

（田村知子編著『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい、2011年）

（右図は、田村知子先生ご提供スライドより引用。田村知子『カリキュラムマネジメントの理論と実践』日本標準、2022年、p.49）



# ◎カリキュラム改善・改革のための基本的な流れ

## カリキュラム改善の目標設定

推進グループで  
年間基本計画を策定する

全教員で理解を共有する  
(講演、ワークショップ)

各グループで具体的な  
計画を立て、実施する

推進グループで、途中経過を  
評価し、計画を修正する

各グループで、  
軌道修正を行う

年間の成果を評価し、次年度に活かす  
(推進グループ、全教職員ほか)

## ◎京都市立衣笠中学校の場合

	先生方の行った課題
2005年度	各教科の代表教師が、パフォーマンス課題を少なくとも一つ作って、指導に取り入れてみる。
2006年度	教科会で協力してパフォーマンス課題づくりを行うとともに、モデル作品づくりをしてみ、指導の改善に役立てる。
2007年度 ・ 2008年度	各教科会において、パフォーマンス課題に取り組んだ生徒たちが生み出した作品にもとづいてルーブリック作りを行う。また、それを踏まえて授業改善を図る。



(北原琢也『「特色ある学校づくり」とカリキュラム・マネジメント』三学出版、2006年)

Cf. 西岡加名恵「カリキュラム・マネジメントは学校を変える」

NITSニュース第212号、2023年5月26日、

[https://www.nits.go.jp/service/magazine/2023/20230526\\_001.html](https://www.nits.go.jp/service/magazine/2023/20230526_001.html)

# (2) 各学校が参考にできるサイトの充実

## ◎京都大学大学院教育学研究科E.FORUM

(<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>)

研究成果のご紹介



教員研修を提供



表. E.FORUMスタンダード (試案)：中学校数学 (石井英真編集)

評価	留意点(注)	留意
編集の本来目的に近い	なぜその数は必要なのか、なぜその式を使うのか、どうすればうまく計算できるか、算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	図形にはどのような形や位置関係があるのか、図形の性質を把握するものは何か
中 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
学 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
生 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
教員	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
中 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
学 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
生 本質的な	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
教員	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか

E.FORUM Online (EFO) ~データベースと揭示版



E.FORUMスタンダード ~第1次案を公開中

教員	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか	算の数を減らすことはいいか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか、なぜその式を使うのか
----	--	--

# ◎指導案や教材のサイト例



DIGITAL INQUIRY GROUP

REGISTER LOG IN Lessons and assessments... **SEARCH**

CIVIC ONLINE REASONING Curriculum | **READING LIKE A HISTORIAN** History Lessons | BEYOND THE BUBBLE History Assessments | ABOUT EVENTS PROJECTS PUBLICATIONS

**REGISTER TODAY!** Access free classroom materials by logging into your SHEG account or creating a new DIG account **CREATE AN ACCOUNT**

## History Lessons

### TOPIC

U.S. History (7)

World History (5)

### TIME PERIOD

Colonial Era (9)

Revolutionary War and Early U.S. (11)

Slavery and Expansion (11)

Civil War and Reconstruction (9)

The Gilded Age (9)

American Imperialism (4)



The Cold War

[VIEW LESSON](#)



The Korean War

[VIEW LESSON](#)



Truman and MacArthur

[VIEW LESSON](#)



Cold War in Guatemala

[VIEW LESSON](#)



Castro and the United States

[VIEW LESSON](#)



Cuban Missile Crisis

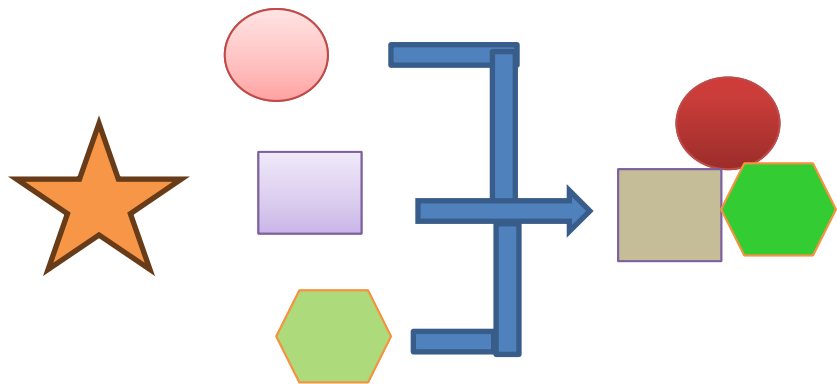
[VIEW LESSON](#)

(<https://inquirygroup.org/history-lessons>)

### (3) 教科書の到達点と課題

◎パフォーマンス課題の位置づけ方  
～単元内・単元間の構造

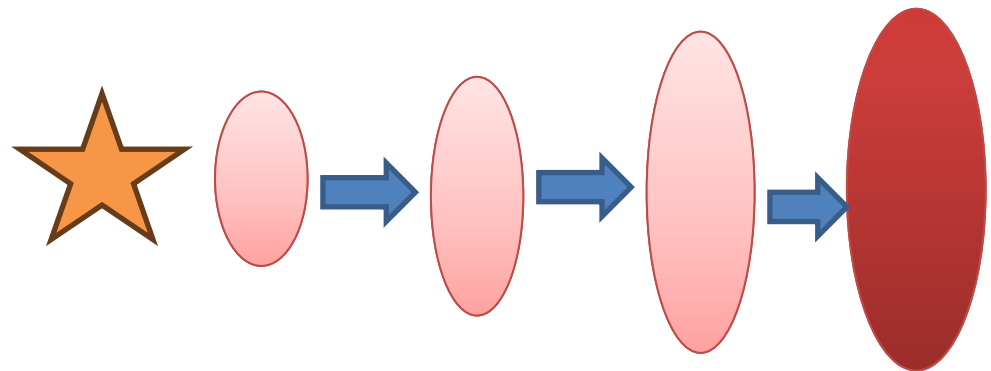
#### パーツ組み立て型



実は既に多数の課題が教科書に載っている!

しかし、実際に実践されているか??

#### 繰り返し型



全ての単元で  
用いなくてもOK

掲載する単元の精選、  
あるいは  
選択必修化を...



# ◎逆向きに指導を構想すると、単元展開や教科書に掲載したい内容が変わる

## 教科書における内容の配置

### 第3章 日本の諸地域

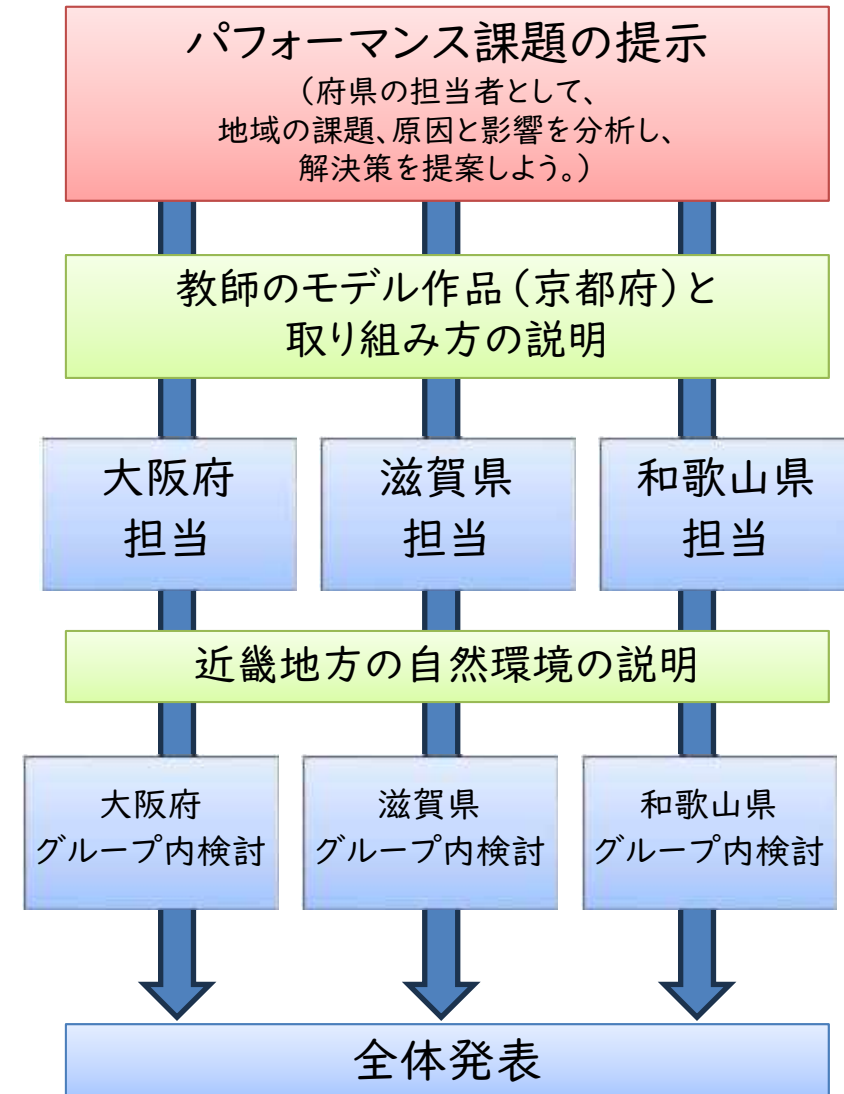
#### 第3節 近畿地方

1. 近畿地方の自然環境
2. 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 →滋賀県
3. 阪神工業地帯と環境問題への取り組み →大阪府
4. 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 →京都府
5. 環境に配慮した林業と漁業 →和歌山県

(『社会科 中学生の地理』帝国書院、2021年)

Cf. 子どもたちの通学カバンが重すぎる問題  
→すべての子どもたちが、同じ教科書の紙バージョンと電子バージョンの両方を持てる形を標準にできないのだろうか？

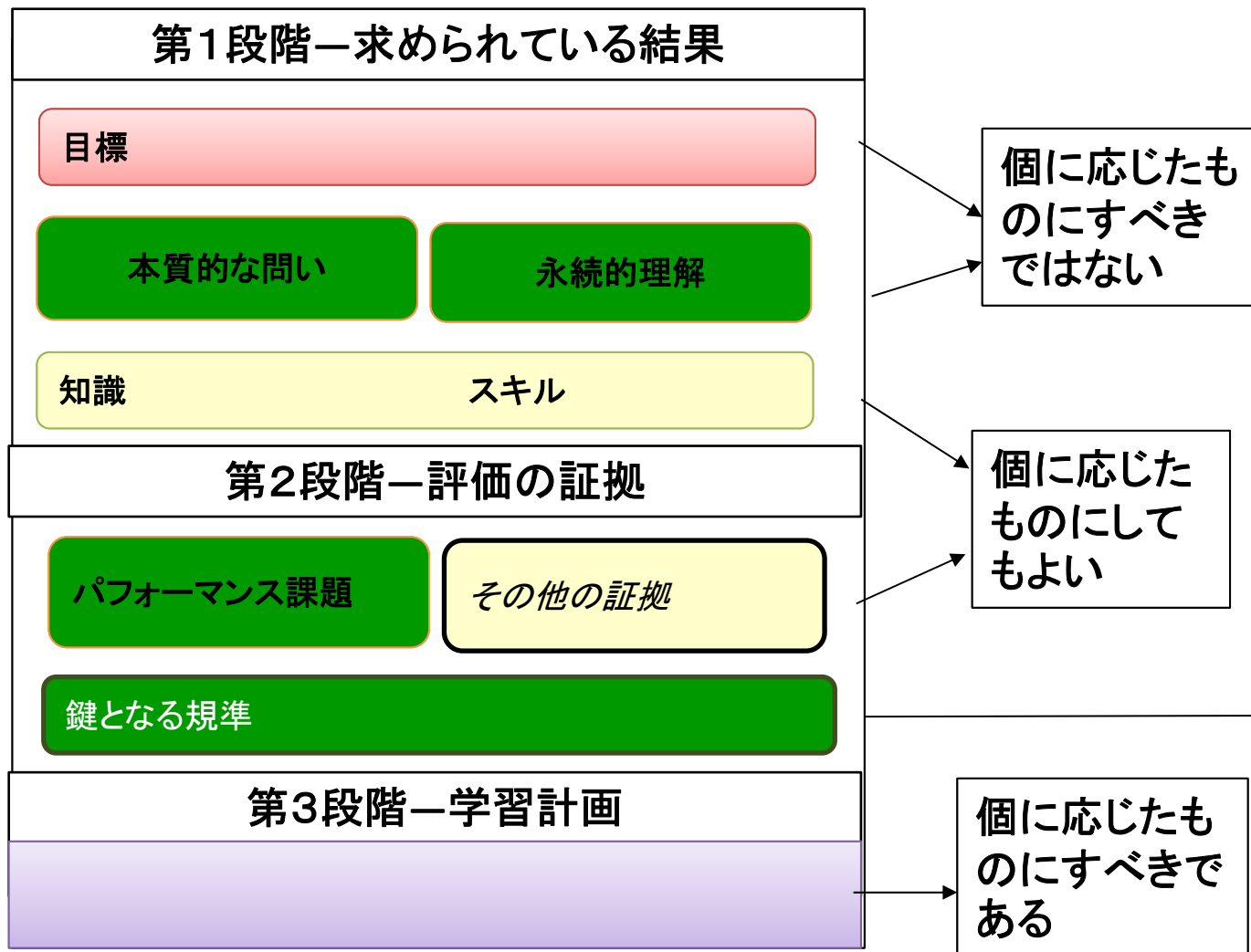
## 指導の展開



## (4) 学習指導要領の役割


◎扱われるべき目標・内容と、身につくことが期待される「資質・能力」を規定する

Cf. 個人差（興味や学力格差等）への対応



単元の指導の展開など、指導方法を規定すべきではない。

(Tomlinson, C. A. & McTighe, J., *Integrating Differentiated Instruction and Understanding by Design: Connecting Content and Kids*, ASCD, 2006)



# ◎記述の形式を変える可能性

## ●中学校学習指導要領 (社会科)

### ア 知識・技能

#### (1) 近代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

##### (ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き

欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。

##### (イ) 明治維新と近代国家の形成

開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解すること。

<中略>

### イ 思考力・判断力・表現力等

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(カ)までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

# ●米国の科学教育 スタンダード

(次世代科学スタンダード:  
Next Generation Science  
Standards)

## 期待される パフォーマンス

(「科学的・工学的実践」、  
「学問上の核となる観念」、  
「領域横断的な概念」を  
総合して、力を発揮する姿)

(大貫守『アメリカにおける科学  
教育カリキュラム論の変遷——  
科学的探究から科学的実践へ  
の展開』日本標準、2023年)

2-PS1 物質の構造と性質		
理解を示す児童ができること： 2-PS1-1. 観察可能な特徴によって異なる種類の素材を分類・記述するための調査を計画・指揮する。 (記述の明確化：観察は色や手触り、硬さや柔らかさを含む。 パターンは異なった素材が共有している同様の特徴を含む) 2-PS1-2. 本来の目的に最も合う性質をもった素材を決定するために、異なった素材を検証したことで得たデータを分析する。 (記述の明確化：性質に関する例としては、強度、柔らかさ、硬さ、手触り、吸水性を含む) (評価の境界線：量的な測定の評価は量に制限される)		
上の期待されるパフォーマンスは、NRCの「幼稚園から第12級までのための科学教育」から得られた以下の要素を使用することによって達成させられる。		
科学的・工学的実践	学問上の核となる観念	領域横断的な概念
<b>調査を計画し実行する</b> ・K-2において、問いに答えるための解決策を検証するため、または問いに答えるための調査の計画と実行をすることは、既有経験に立脚し、説明を支持または解決策をデザインするためのデータを提供する公平な検証にもとづく単純な調査をすることへと進む。 ・問いに答えるための基礎となる証拠として役立つデータを生産するために協働的に調査を計画・指揮する。(2-PS1-1)	<b>PS1.A: 物質の構造と性質</b> ・異なった種類の物質が存在し、そしてそれらの多くは温度に依存して固体や液体のどちらかの状態である。物質は、それらの観察可能な性質によって分類や記述がなされる。(2-PS1-1) ・異なった性質は異なった目的に適合している。(2-PS1-2)	<b>パターン</b> ・自然界や人間がデザインした世界におけるパターンは観察可能である。(2-PS1-1) <b>原因と結果</b> ・原因についての生徒の考えを否定もしくは支持するための証拠を集めるように簡単な実験がデザインされる。(2-PS1-2)
<b>データの分析と解釈</b> ・K-2において、データを分析することは既有経験に立脚し、観察したことを収集・記録・共有することへと進む。 ・物体や道具が意図した形で作用して		工学やテクノロジーや応用科学への結合 社会と自然界における工学・テクノロジーの科学の影響

# ◎全米音楽教育スタンダード (National Association for Music Education)

2014 Music Standards (PK-8 General Music)

## CREATING

### Imagine

Generate musical ideas for various purposes and contexts.

**Enduring Understanding:** The creative ideas, concepts, and feelings that influence musicians' work emerge from a variety of sources.

**Essential Question:** How do musicians generate creative ideas?

永続的理解

本質的な問い

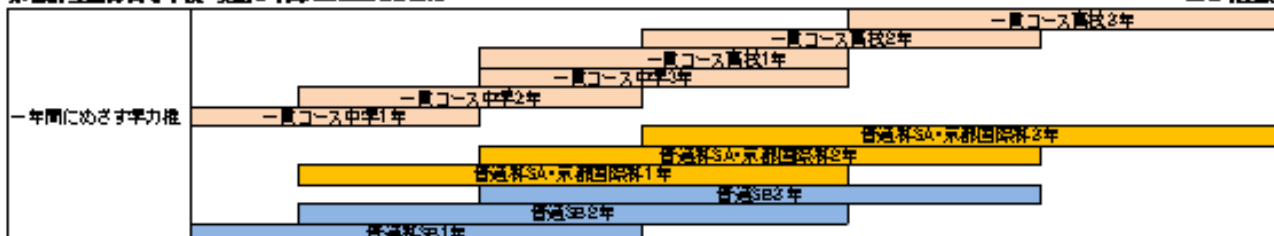
	Pre K	K	1	2	3	4	5	6	7	8
Common Anchor #1	MU:Cr1.1.PKa With substantial <b>guidance, explore</b> and experience a variety of music.	MU:Cr1.1.Ka With <b>guidance, explore</b> and experience a variety of music.	MU:Cr1.1.1a With limited <b>guidance, create musical ideas</b> (such as answering a question).	MU:Cr1.1.2a <b>Improvise rhythmic and melodic patterns and musical ideas</b> within a specific context.	MU:Cr1.1.3a <b>Improvise rhythmic and melodic ideas, and describe connection</b> to specific purpose and context (such as <b>personal and social</b> ).	MU:Cr1.1.4a <b>Improvise rhythmic, melodic, and harmonic ideas, and explain connection</b> to specific purpose and context (such as <b>social and cultural</b> ).	MU:Cr1.1.5a <b>Improvise rhythmic, melodic, and harmonic ideas, and explain connection</b> to specific purpose and context (such as <b>social and historical</b> ).	MU:Cr1.1.6a <b>Generate simple rhythmic, melodic, and harmonic ideas</b> within AB and ABA forms.	MU:Cr1.1.7a <b>Generate rhythmic, melodic, and harmonic phrases and variations</b> over a simple accompaniment.	MU:Cr1.1.8a <b>Generate rhythmic, melodic and harmonic phrases and harmonic accompaniments in expanded forms</b> (including improvisations, variations, and transcriptions) that convey expressive intent.
		MU:Cr1.1.Kb With <b>guidance, generate musical ideas</b> (such as movements or motives).	MU:Cr1.1b With limited <b>guidance, generate musical ideas in multiple tonalities</b> (such as <b>major and minor</b> ) and <b>meters</b> (such as <b>duple and triple</b> ).	MU:Cr1.1.2b <b>Generate musical patterns and ideas within the context of a given tonality</b> (such as <b>major and minor</b> ) and <b>meter</b> (such as <b>duple and triple</b> ).	MU:Cr1.1.3b <b>Generate musical ideas</b> (such as <b>rhythms and melodies</b> ) within a given <b>tonality and/or meter</b> .	MU:Cr1.1.4b <b>Generate musical ideas</b> (such as <b>rhythms, melodies, and simple accompaniment patterns</b> ) within related <b>tonalities</b> (such as <b>major and minor</b> ) and <b>meters</b> .	MU:Cr1.1.5b <b>Generate musical ideas</b> (such as <b>rhythms, melodies, and accompaniment patterns</b> ) within specific related <b>tonalities, meters, and simple chord changes</b> .			

(<https://nafme.org/publications-resources/standards/>)

# ◎京都府立園部高等学校 英語科の目標・評価基準

京都府立園部高等学校 英語5年間Assessment Grid

2020年度版



あなたは園部高校を訪れている外国からのお客さんに日本のことや暮らしを紹介することになりました。下にあるような内容を適宜選んで自由に英語で書いてください。その際、あなた自身の経験や感じたことなどを書いて、できるだけ具体的にできるようにしてください。

わたしからのお奨め観光スポットやもの・私の住む町・市・私の家族・趣味・好きなこと・学校生活・週末の過ごし方など

(京都府立園部高等学校における実践。ただし、課題文を一部修正した。西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子・京都府立園部高等学校・附属中学校編著『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』学事出版、2017年、p.56)

	目標段階						
	1	2	3	4	5	6	
理解	Reading	身近な話題が分かる。ごく短い文章が理解できる。	高級医療で書かれたやさしいテキストが読める。日常生活の必要性や興味のある部分から必要な情報が読み取れる。	本文の主題および視覚的要素が分かる。さまざまな分野の思想的な問題(書評・学習・科学・健康・社会)の文を評書を読みながら読める。	視覚的要素を理解し、視覚的要素を説明して前から読み進めることができる。視覚的要素をほとんど読める。評論文の論旨の展開が理解できる。実用書など評書と意見があれば読める。	長い文章が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文章が読める。実用書や実用サイトを評書があれば読める。	評書を使って専門的な論文が読める。実用書や実用サイトを評書で読める。
	Listening	英語で何度も繰り返すことを聞ける。	自分の家や学校や地域に関する音の周りの風物について、人がゆっくりはっきりしゃべってくれたら、なじみのある語彙や構造的な内容を理解できる。	学習したテーマに関する音の聞き取りができる。またそのテーマに関するリスニングや読まれた文章の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する音の聞き取りはゆっくりはっきり読まれる。リスニングのポイントを聞き取ることができる。	ゆっくりはっきり読まれる。テレビの番組やニュースのポイントが聞いている。	早いスピードや構造的な内容を聞き取れる。論旨が多少複雑でも理解できる。テレビや時事番組の内容が理解できている。リスニングの多くない映画ならほとんど理解できる。
表現	Writing	アルファベットで自分の名前を書ける。簡単な文章が書ける。	思想的な問題を書きつつも、簡単な日記などの文章を書くことができる。既習の文章を使って文章を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることについて簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明などを加えて、意見や感想を書くことができる。視覚的要素や図表を使って表現することができる。	幅広い分野に関して、理由や説明を詳しく、パラグラフ構成が整った文章の書き方を学ぶことができる。	しつこりした論理構成で、アカデミックな題材の短文や報告を書くことができる。
	Oral Communication	自分の名前、住んでいる場所などを書ける。	簡単な文章を使って自己紹介や家族・学校生活などの紹介をすることができる。	自分の町、知っている人々のことを簡単に紹介することができる。	文をいくつが効果的に組み合わせて読む、読み進めることができる。	自分の好みや意見を理由をつけて述べる。テーマに基づいてまとめたスピーチを書く。	自分の興味のある分野のさまざまな話題について、意見を明確に、説得力を持って、発表することができる。

	知識段階					
	1	2	3	4	5	6
知識	実務の書に慣れる。書きされたひとがのり実務の書に慣れる。	本文の基本的な読み書きを理解する(主語のたまりの直後に述語がたまりが置かれる)	主語と述語という概念を理解する。	視覚的要素の実態を音声で理解する。		
	主語と述語という概念を理解する。(2単語を知る)	名詞・代名詞・人々の概念を理解する。	間接疑問文	視覚的要素でつながれる文章の構造を読み取る。		
	特殊な文の形を知る(命令文・There+be構文の文)	疑問文と否定文の構造を知る(Do/Does/Didの活用)	間接疑問文			
	疑問文の意味とその使い方を理解する。	自問文と他問文の区別を理解する。	SV+名詞的、SV+名詞+分詞、SV+名詞+不定詞、の形がかわる意味を理解してこれらの構文を覚える。	SV+名詞的、SV+名詞+分詞、SV+名詞+不定詞、の多様な構文を知る。		
	andとbut、視覚的要素のwhereの使い方を理解する。	動詞を知る(一般動詞・be動詞)(現在形・過去形)(過去分詞形)(不定形変化)	動詞を知る(一般動詞・be動詞)(現在形・過去形)(過去分詞形)(不定形変化)	視覚的要素全般		
	動詞の意味と使い方を理解する。			不定形を理解し、覚える。		

# Cf. 京都府立園部高校の年間指導計画（学力評価計画を含む）

園部高校英語科年間シラバス 科目：英

：坂上渉・永井妙子・田中容子

学年末までにめざす到達レベル  
（長期的ルーブリックに示されたもの）

学年末の到達点	読む力 文の主述をつかめる 他の...	文を聞いてレポートする練習をする。 教室内で指示される英語を理解させる。	精読した英文についてまとめ や感想を書く。	教室内で を行う。 を促す。	族・学校・部活動等の紹介をすることができる。 ないが）学習したテーマ及び... できる。
<p><b>重点目標↓</b></p> <p>通年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語と日本語の文構造の違い（語順の違い）を理解して、英語から日本語、日本語から英語へ転換することができる。</li> </ul> <p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複文構造を含む500ワード程度の英文が表す意味を正しく読み取る。</li> <li>自分が操作できる語彙と文構造を用いて、読み取った内容をリライトすることができる。</li> <li>自分が操作できる語彙と文構造を用いて、読み取った内容を口頭で発表することができる。</li> <li>英文中の情報を読み取り、その時代背景や登場人物の気持ちをイメージすることができる。また、その英文に対する自分自身の意見や感想を英語で表現することができる。</li> </ul> <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った英文を参考にして、自分が表現したいと想う内容について写真などを用いながら、英文で書くことができ、それを発表することができる。</li> <li>英語で理解した話を、自分の英語力の範囲内で話しながら表現することができる。自分で簡単な英語の話を創作することができる。</li> </ul> <p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな構造を含む英語の物語（700ワード程度）をストーリーを追って理解し、あらすじを100ワード程度の英語でまとめることができる。</li> <li>簡単な身の回りの情報や英語で書かれたニュースを読んだり聞いたりして理解。することができる。また、それについての自分の意見を書いたり発信（発表）したりすることができる。</li> </ul>	<p><b>下位目標↓</b></p> <p>通年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語文を理解するのに必要な文法スキルを獲得して、テキストに登場した英語単語の意味を知り、使える。</li> </ul> <p>1学期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>行為や事実を表すのに、日本語においても英語においても主語と述語動詞が情報の中心を担っている概念であることを理解する。</li> <li>SV が表す行為や事実を補強したり支える文の要素があることを知る。</li> <li>自動詞と他動詞の違いを理解して使い分けができる。</li> <li>前置詞の意味を知り、前置詞+名詞 の語順と、それが表す意味を理解し、使うことができる。</li> <li>名詞・動詞・形容詞・副詞 の概念がわかり、文中で見分けることができる。</li> </ol> <p>2学期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>SV,SVC,SVO,SVOO,SVOC、それぞれの構文を作る構文を正しく使うことができる。</li> <li>how, who, what, when, where の意味を知っている中で読み取ることができて、表現に使うこともできる。</li> <li>過去分詞・現在分詞が表す意味を読み取ることができる。</li> <li>句や節の後置修飾を読み取ることができる。</li> <li>冠詞の働きと意味を理解する。</li> <li>動詞の形（進行形・受身形・完了形）を見分けて意味を理解することができる自分の暮らしや気持ちを表現できるだけの語彙を身に付ける。</li> </ol> <p>3学期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人の気持ち、ものの状態を表す形容詞が使える。</li> <li>英語を朗読できる。</li> </ol> <p>以上の項目について、教材を通しての知識理解を繰り返しながら、一年間かけて習熟させる。</p>	<p>使用テキスト 単元</p> <p>Crown English Series I Breakthrough Upgraded English Grammar in 36 lessons</p> <p>文法の入門ワークシート（オリジナル教材）</p> <p>Crown English Series I (Lesson3)</p> <p>ブレイクスルーキーストーン英文法(文の種類、文型、時制、進行形、完了形)</p> <p>Crown English Series I (Lesson 5・7)</p> <p>ブレイクスルーキーストーン英文法(助動詞、受動態、動名詞、不定詞、分詞)</p> <p>Crown English Series (Optional lesson)</p> <p>ブレイクスルーキーストーン英文法(関係詞、比較、仮定法)</p>	<p>評価の観点</p> <p>表現の能力 理解の能力 関心意欲 知識・理解</p> <p>表現の能力 理解の能力 関心意欲 知識・理解</p> <p>表現の能力 理解の能力 関心意欲 知識・理解</p>	<p><b>パフォーマンス課題↓</b></p> <p>年間を通じた課題 「英語で書かれた以下の新聞記事を、よくわかる日本語に直してください。」</p> <p>「My favorite thing」あるいは「My important thing」という題、クラスメートに対してスピーチをしてください。その際、実際の物やその物の写真を見せて、聴く人があなたのスピーチをよく理解できるような工夫をしてください。」</p> <p>「自分の興味や関心のあるテーマを一つ設定してそれについて英語で論じ、聴いている人が『なるほど』と思うようなスピーチをしてください」</p> <p>「お気に入りの写真を、英語で紹介してください」</p> <p>「2012年のあなたの高校生活の素敵な場面を営業にして語りましょう。日常の高校生活の場面や校内のお気に入りの場所を写真にとり、『My daily school life』と題するスピーチをしてください。」(グループ活動)</p> <p>「一年間を振り返って、思い出を英語で書いてください。文集を作ります。」 「～についてあなたの意見を50ワード以上述べなさい」</p>	<p><b>その他の評価方法↓</b></p> <p>中間テスト 期末テスト 確認小テスト 筆記課題 音読テスト パフォーマンス発表</p> <p>中間テスト 期末テスト 確認小テスト 筆記課題 音読テスト パフォーマンス発表</p> <p>中間テスト 期末テスト 確認小テスト 筆記課題 音読テスト パフォーマンス発表</p>

（京都府立園部高等学校 坂上渉先生・永井妙子先生・田中容子先生提供。西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子・京都府立園部高等学校附属中学校編著『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』学事出版、2017年、p.19）

# ◎「総合的な学習（探究）の時間」で各学校の裁量を認めることの重要性 Cf. 生野南小学校（現・田島南小中一貫校）の「『生きる』教育」

【中3】社会の中の親子——子ども虐待の事例から

【中2】リアルデートDV——支配と依存のメカニズム

【中1】脳と心と体とわたし——思春期のトラウマとアタッチメント

## 【小1・5・6】 虐待予防教育

- 家庭について考えよう——結婚・子育て・親子関係（小6）
- 愛？ それとも支配？——パートナーシップの視点から（小5）

## 【小4】考えよう みんなの凸凹 ——障害理解教育

- たいせつなところと体——プライベートゾーンを学ぶ（小1）

## 【小2・3・4】

## ライフストーリーワークの 視点を取り入れた教育 ——治療的教育

- 10歳のハローワーク——ライフストーリーワークの視点から（小4）
- 子どもの権利条約って知ってる？——今の自分と向き合う（小3）
- みんなむかしは赤ちゃんだった——いのちのルーツをたどる（小2）

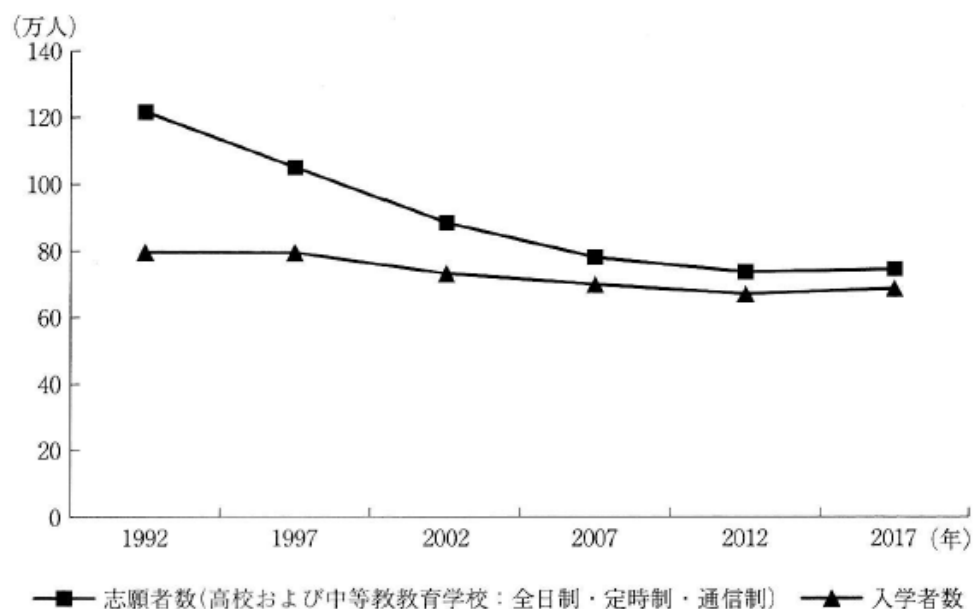


（西澤哲・西岡加名恵監修、小野太恵子・木村幹彦・塩見貴志編、才村眞理・竹内和雄・橋本和明・大阪市立生野南小学校・田島中学校著『「『生きる』教育」——自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ（生野南小学校教育実践シリーズ第1巻）』日本標準、2022年など）



## (5) “大学全入時代”に求められる高大接続改革

- 高等学校における学力水準と学習意欲の向上
- 学力そのもの(学力構造)の捉え直しも必要
  - 問題解決に生きて働くような「深い理解」
  - 学習の意義が実感できるような機会



図終-4 高等教育(大学・短大)の全体規模の推移

注: 志願者数は学校基本調査報告書(初等中等教育機関, 専修学校・各種学校編), 入学者数は学校基本調査報告書(高等教育機関編)より作成。なお, ここでの志願者数には, 社会人等が入っていない点に注意されたい。

(山村滋・濱中淳子・立脇洋介『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』ミネルヴァ書房、2019年、p.179)

## ◎ 高大接続の「セグメント化」

- 学力水準を確保する仕組みが実現されていない。
- 学習意欲の格差が拡大。
- 学力の構造もバラバラ。

### (3) 高大接続を把握するための視点

大学の高校化、高校の大学化という状況が進行している状況を踏まえ、今後、教育接続を検討する際に必要な見取り図として、3つの次元を提示することができる。1.教育内容、2.高校の学習（学力水準、学力の範囲、教科の種別など）における共通性と多様性、3.接続のタイムスパン（教育接続の評価を大学4年間のどの時点で行うか）である。さらに、1.教育内容に関しては、ア.高校での履修教科と大学入試の科目との関係、イ.高校の教科と大学のディシプリンとの連続性・非連続性、ウ.習得すべき学力（知識・技能か、能力か）の3側面からの検討が求められる。この構造的見取り図にもとづけば、従来の高大接続の議論がいかに限定的であったかがわかる。

### (4) 学習者の移行からみた高大接続の現状

高大の教育接続に関する議論の前提として、学習者の高校から大学への移行状況を把握する必要がある。本報告では、これまでの調査研究から、地域、性別、高校の学科、高校の入学難易度、学習者の社会階層、附属・系列高校からの進学、マイノリティへの配慮などに関する実態を提示した。また、ほぼ未検討であった、過年度卒業生、社会人、高等学校卒業程度認定試験経由の受験者などの移行状況の把握が重要であることを指摘した。そして、教育内容・選抜方法・学習者の社会的属性などによって高校から大学への移行パターンが細かく断片化し、多様な高大接続が並存するようになっている状況が明らかになり、それを本報告では「セグメント化」と命名した。

（日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会「日本における高大接続の課題——『セグメント化』している現状を踏まえて」2023年9月27日）

# ◎能力・学習活動の階層レベルと評価方法

A. 能力・学習活動の階層レベル		B. 評価方法の例
教科等の 学習の 枠づけ の中での	1. 知識の獲得と定着 (知っている・できる) ※「事実的知識」「個別的スキル」	・選択回答式(客観テスト式)の問題
	2. 知識の意味理解と洗練 (わかる) ※「転移可能な概念」「複雑なプロセス」	・自由記述式の問題
	3. 知識の有意義な使用と創造 (使える) ※「本質的な問い」、「原理や一般化」についての「永続的理解」	・パフォーマンス課題
学習の 枠づけ 自体を 決定・再構成する学習	4. 自律的な課題設定と探究 (メタ認知システム)	・小論文 ・「総合的な学習(探究)の時間」などのポートフォリオ
	5. 社会関係の自治的組織化と再構成(行為システム)	・「総合的な学習(探究)の時間」や特別活動などについてのポートフォリオ

共通性、  
水準確保

個性化、  
マッチング

(西岡加名恵「高大接続改革の到達点と今後の課題」西岡加名恵・石井英真編著『学力テスト改革を読み解く! 「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価』明治図書、2021年、p.29。Aの欄については、石井英真『今求められる学力と学びとは』2015年、p.23を踏まえて作成。)

## Cf. イギリス GCE Aレベル

表6 AQA 歴史の評価観点と評価対象

AO1	その時代の主要な特徴を分析・評価するために、原因、結果、変化、継続性、類似性、相違、重要性といった概念を探り、判断を行う中で、知識と理解を整理し、伝達し、実証する。
AO2	歴史的文脈の中で、その時代についての適切な一次的な資料、または現代の資料を分析および評価する。
AO3	過去の様相についての様々な解釈を、歴史的文脈との関連で分析および評価する。

評価対象	配点 (おおよその%)			配点合計 (おおよその%)
	Component 1	Component 2	Component 3	
AO1	25	25	10	60
AO2	0	15	5	20
AO3	15	0	5	20
配点合計	40	40	20	100

出典：AS AND A-LEVEL HISTORY AS (7041) A-level (7042) p.74 (<https://filestore.aqa.org.uk/resources/history/specifications/AQA-7041-7042-SP-2015.PDF>、2020年1月20日確認)

### ※Component 3は、 コースワーク (学校で 作成されたレポート)

(二宮衆一「イギリスのAレベルと多様な入学資格」伊藤実歩子編著『変動する大学入試』大修館書店、2020年、p.215)

## Cf. 国際バカロレア

### ※外部評価 (最終試験) と、内部評価 (学校におけるレポートやプレゼンテーション) を併用

(次橋秀樹「国際バカロレア」細尾萌子・夏目達也・大場淳編著『フランスのバカロレアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成』ミネルヴァ書房、2020年、p.265。国際バカロレアのサイト

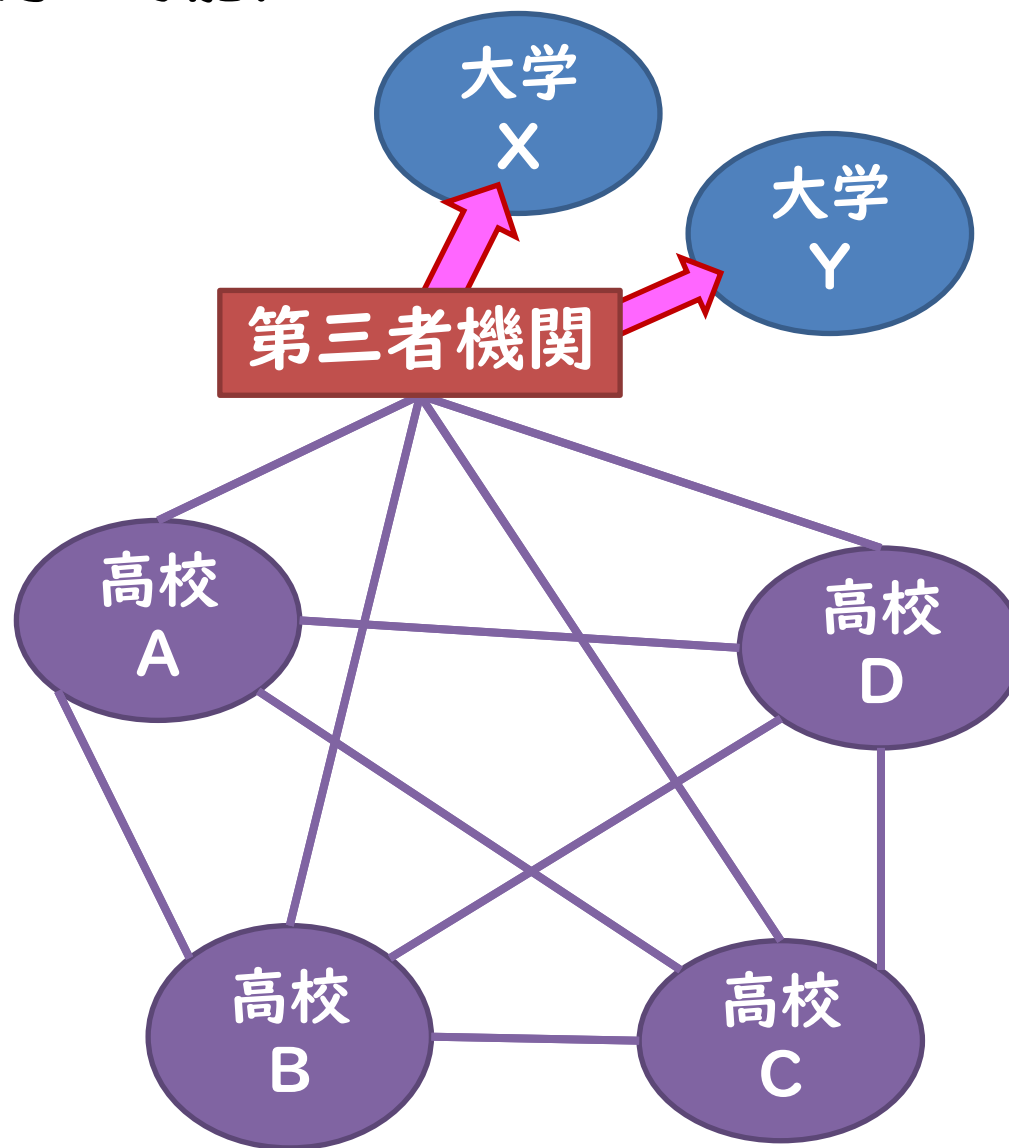
<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/>も参照)

## ◎新たな高大接続システム構想の可能性

※中等教育修了資格試験  
「外部評価(統一試験)」と「内部評価(学校での教師による評価)」の組み合わせで認定  
→日本版IBを作る?

※調査書の比較可能性を高める?

いずれにせよ、ボトムアップで  
(複数の)スタンダードを作っていく  
ようなシステムが必要ではないか?



(西岡加名恵「高大接続改革の到達点と今後の課題」西岡加名恵・石井英真編著『学力テスト改革を読み解く! 「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価』明治図書、2021年)



## ◎スタンダード開発の例

- スタンダード：社会的に共通理解された目標・評価基準  
→評価のカリキュラム適合性（妥当性）、比較可能性（信頼性）を高める。説明責任を果たしやすくなる。  
学校間の接続をより円滑なものにする。
  - 乙訓スタンダード：京都府乙訓地方の8校の中学校が、「評定」用ルーブリックや、観点別評価から「評定」への変換ルール（教科ごとの重みづけ）を共通の枠組みとして設定。  
←先生方へのアンケート結果、教員研修の場での議論  
→評価方法に関する共同研究の深化
- （盛永俊弘「学校間格差と内申書」田中耕治・西岡加名恵編著『内申書を問う』有斐閣、近刊）
- SSH8校による「標準ルーブリックと指導方略」開発  
←科学的探究・数学的探究に関して、実際の事例を持ち寄り、議論を重ねる。

# ◎乙訓スタンダード

## 【評価計画Ⅰ】…「評定」用ルーブリック（評価指標/レベル分け基準表）

※当面は、全教科で使えるものとする。（将来的には、各教科で作成することも検討する。）

「評定」	学力実態	乙訓地方中学校長会の確認 (平成23年12月)
5	その学年で期待される水準をはるかに上回る、極めて優れた学力を身につけている。多彩な難度の高い問題・課題にも創意工夫して取り組むことができ、自律的に解答・解決することができる。	90'
4	その学年で求められている必須目標（目標のうち特に重要なもの）が十分に達成されており、難度の高い問題・課題にも創意工夫して、自律的に取り組むことができる。	80'
3	その学年で求められている必須目標（目標のうち特に重要なもの）が達成できており、次学年でも問題なく学業についていけると予想される。	50'
2	その学年で求められている必須目標（目標のうち特に重要なもの）の達成に不十分なものが見られる。	30%以上
1	その学年の必須目標の大半が習得できておらず、集中的な支援が必要である。	30

→ 重要な目標

→ 評価方法

## ↑ 「評定」用ルーブリック

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.267。盛永俊弘「地域で学習評価の改善に取り組む」奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年、pp.136-141）

## 【評価計画Ⅱ】観点別評価の付け方と「評定」への変換ルール表

●記入例（イメージ）

## ↓ 変換ルール、重みづけ

「評定」への変換ルール	5: 90%以上		2: 30%以上		
	4: 80%以上		1		
観点別評価の重みづけ	観点Ⅰ	観点Ⅱ	校長会で決めた各教科の数値を書き込む		
	20	25	30	25	
必須目標（全員の達成がめざされる特に重要な目標）	2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ知識・技能を活用するような問題づくりができる。</li> <li>平方根を利用して、デザインを設計することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根の式を解くことができる。</li> <li>根号を使った数の乗除の計算ができる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>素数・因数・素因数とは何かがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根の式を解くことができる。</li> <li>根号を使った数の乗除の計算ができる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>素数・因数・素因数とは何かがわかる。</li> </ul>	
	図形の計量	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ知識・技能を実生活で活用し、問題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相似を利用して、高さや距離を求め、求め方を論理的に説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根の式を解くことができる。</li> <li>根号を使った数の乗除の計算ができる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>平方根の意味がわかる。</li> <li>素数・因数・素因数とは何かがわかる。</li> </ul>	
	2乗に比例する関数			<ul style="list-style-type: none"> <li>習得が必要な必須目標について、箇条書きして、チェックリストを作る。（具体的な問題例等を示すのもよい。）</li> </ul>	
	資料の活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーブリック（評価指標・レベル分け基準表）を用いて評価することも考えられる。</li> </ul>	
成績づけのための評価方法	筆記テスト			30	25
	実技テスト				
	パフォーマンス課題（レポート）	10	25		
	授業中の観察等				
	作問帳	10			
成績づけのための評価の時期	複数作成して、一番良い作品2つ	大単位の一つ	期末テスト	期末テスト	期末テスト
				実行可能な範囲で、必要最小限のものを計画する。	

# ◎「科学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略」の開発

生徒の具体的な事例を踏まえつつ、検討する。



(西岡加名恵・大貫守「スーパーサイエンスハイスクール8校の連携による『標準ルーブリック』開発の試み」『教育方法の探究』第23号、2020年3月、pp1-12、<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/250817>。西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年、pp.30-31)

## 標準ルーブリックと指導方略

教科、標準ルーブリックと指導方略	評価の設定	評価の具体化	評価計画の立案と実施	情報収集と情報の評価	結果からの考察
1-1 基礎的・基本的な事項の理解	研究の意義や目的を説明できること。	研究の目的や方法を説明できること。	研究計画を立てることができること。	研究の進捗状況を把握できること。	研究の結果を考察できること。
1-2 探究的・創造的な事項の理解	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。
2-1 基礎的・基本的な事項の理解	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。
2-2 探究的・創造的な事項の理解	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。
3-1 基礎的・基本的な事項の理解	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。
3-2 探究的・創造的な事項の理解	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。	自分の研究課題の科学的意義や社会的意義を説明できること。

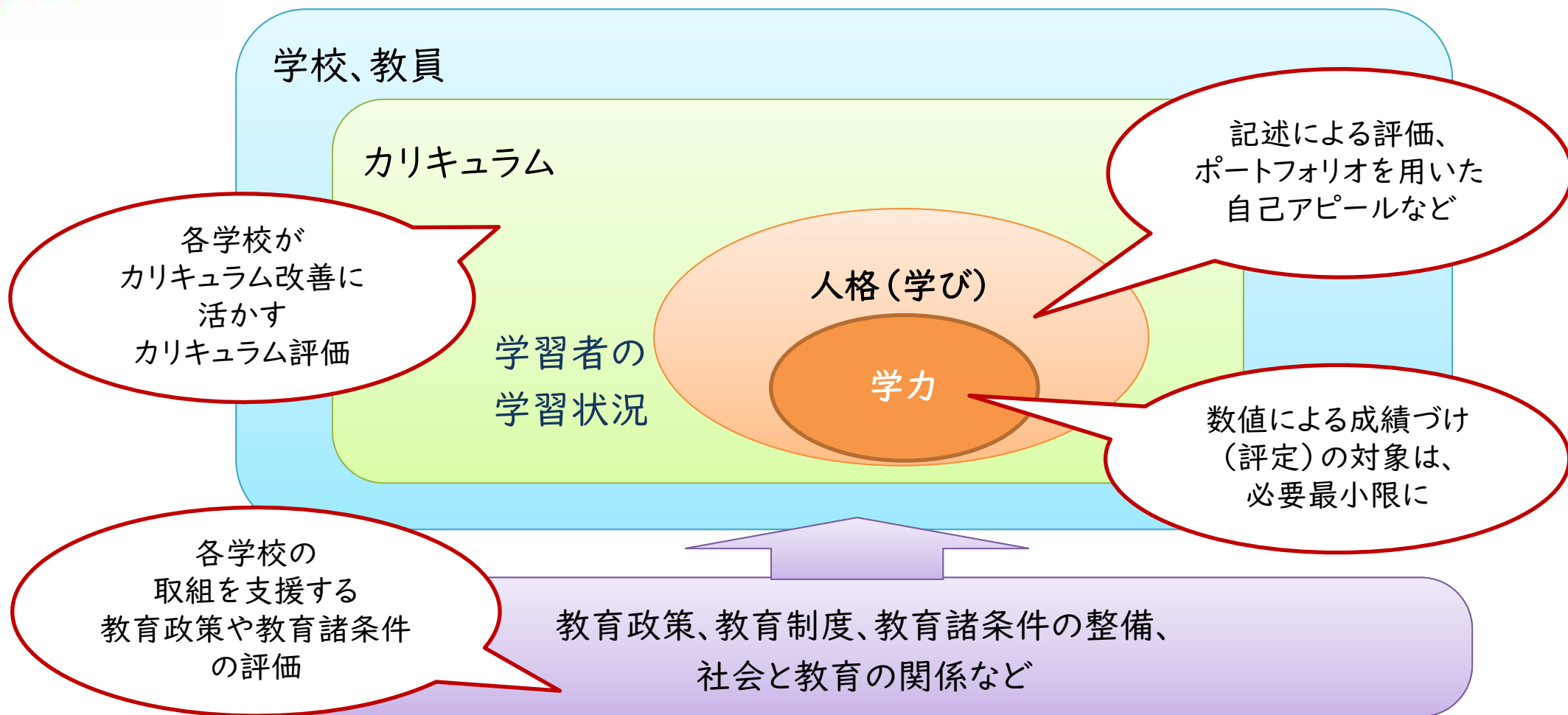
「標準ルーブリック」を作れたのは、目標とカリキュラムが共通していたから!



## (6) 教育評価（教育の改善に活かす評価）の対象

※「学習状況」の評価だけが評価ではない。

※評価から学校のカリキュラム改善へつなげる発想の重要性。



(西岡加名恵「教育評価とは何か」西岡加名恵・石井英真・田中耕治『新しい教育評価入門』有斐閣、2015年、p.14を踏まえて作成。水越敏行『授業評価研究入門』明治図書、1982年、p.20を参考にした。)



## <主要参考文献>

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年
- ③ 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年
- ④ 西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書、2016年
- ⑤ 西岡加名恵・石井英真編著『Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年
- ⑦ 奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年
- ⑧ 西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価——観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集』学事出版、2020年
- ⑨ 西岡加名恵・石井英真編著『学力テスト改革を読み解く! 「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価』明治図書、2021年
- ⑩ 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著『新しい教育評価入門(増補版)』有斐閣、2022年
- ⑪ 西岡加名恵・大貫守編著『高等学校 「探究的な学習」の評価』学事出版、2023年
- ⑫ 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵『子どもと教師のウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2024年